
【詩】ふわり舞う、言ノ葉

把 多摩子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【詩】ふわり舞う、言ノ葉

【Nコード】

N3190U

【作者名】

把 多摩子

【あらすじ】

昔から書き溜めていた詩になります。

ほとんど恋愛事ですが、友達に向けて書いた詩もあります。200文字が難しく、一日1個更新の場合と、まとめて一挙掲載がありますので、見づらいです。申し訳ありません。

主に、ブログからの転載になります。

【笑う】 2003 / 11 / 25

「なんで笑うの？」

何度この言葉を言われただろう

「偽善者」「お人よし」

って何度言われただろう

ココロでは泣いているのに 表には決して出さない
いつもいつも笑顔で居ること それが私

「女の子は笑顔が三割まし」

「笑う門には福来る」

だから笑っているのです
もう、慣れちゃった

笑うということは きっと辛いことからの逃げで
辛くない、寂しくない、へっきだよって
自分で言い聞かせながら まわりに意地を張る
弱い自分を見せたくない 精一杯の強がりなのです

【零れ落ちる涙を】 2003 / 11 / 25

ぼろ、と一つ 零れた涙
頭をぼん、と撫でて、ただ、それだけ

ぼろろ、と二つ 零れた涙
指ですくって、ただ、それだけ

ぼろぼろと零れる涙

一つ一つ、無表情で指ですくう

あなたが居てくれて よかった

【僕の小鸟】（前書き）

2007/12/20（Thu）

【僕の小鳥】

緑色した小鳥を手に入れた
可愛くて愛しくて籠に閉じ込めた
綺麗な声で僕の為に鳴き続ける
僕の大好きな小鳥

籠の中で羽ばたく小鳥を
僕は見ていて不安になる
どうかどうか僕の前から消えないで
籠から出したら小鳥は飛んでいなくなる

僕を置いていかないで
僕の前から逃げないで
不安は日々募って募って
僕は焦燥感に駆られてた

飛び立って居なくなる前に
小鳥の羽を切り落とす
羽根がなくなれば小鳥は消えない
僕の前から消えないから
僕はようやく安心して小鳥を見続けた

小鳥は羽を切られて
そのまま暫くして籠の中で息絶えた
僕の愛する小鳥

死んでから気がついたよ
小鳥は僕から逃げなかったことに

小鳥はずっと傍に居続けたことに
小鳥は

鋭き月光、銀の髪

魔界の月、紅の瞳

高貴なる証、額の紋章

整った顔立ち、全てを魅了し

真っ直ぐな視線は魅惑の甘い罠

唇から零れる声は麻薬に似てて

巨大な大剣振るう腕は逞しく

力強くて暖かい私を捕える檻となり

漆黒の衣に身を包んで夜に溶け

その中で私は虜となる

最強にして最凶で最愛の人の名前を

私はいつも、呼び続けた

深藍色の光の騎士様

囚われて死の淵へ

数奇な運命の星の下に生まれた騎士様は

そこから甦る、銀髪の魔族となりて

深藍色の騎士様に救われた一人の緑の髪の娘は

その人の言葉と贈り物と心遣いに心酔し

彼が死の淵へ旅立った数日後

この世界から消え失せた

「もう一度、抱きしめて名前を呼んでくだされば」

緑の髪の娘の最後の願いは天に届き

容姿は違っても魂は変わらずに

銀髪の魔族となった愛しい人に再会する

緑の髪の娘の今の願いは

「この方と最期まで共に」

それだけ

三重県・三岳寺

【GW・お弁当計画】

夢を見ていたあなたとのGW
去年と違って

今年は確実に出かけ出来る

公園で私が作ったお弁当広げて
2人でまったりお昼ご飯

そんなことを夢見てた2人
私はあなたの好きなおかずを考えて
前日お買い物に出掛けた

その日のランチは私の大好物
あまりにも美味しく出来たから
あなたにも持っていきたかったけど
スープは持っていけないの

夢は見るけど

夢じゃない

あなたとのGWは

明日だね

【予定外の行き先】

4回目のあなたとのプリクラ
メインはこれからだというのに
それだけで私は大はしゃぎ
やたら可愛く写っている私は

毎度ながらあなたの隣で幸せそうだね

高速乗って走り出す

行きたいところが多すぎて

雑誌片手に高速疾走

行き先は決まった

1つのあるSAで

私達は停車した

私の雑誌覗き込んで

あなたは声を張り上げる

「おまえコレ、遠すぎるだろう!？」

・・・ごめん、距離まで見てなかった

慌てて2人は次のインターで降りる

そこで何か見つける予定だった

まさかたまたま降りたそこが

あんなに素敵な場所だったなんて

夢にも思わなかったよね

【目的地は何処だ】

「で、何があるんだ」

雑誌片手に2人はうろつろ

とりあえず、ロープウェイがあるそうなので

そちらへ車を走らせる

行列できる自然薯のお店

森林街道

見えてきたロープウェイの看板

ん？

・・・渋滞だ

車停止

車停止

ロープウェイは見えてこない

大渋滞

・・・なんだけど

【正しい渋滞中の過ごし方】

全く動きを見せない道路

景色が綺麗で

花が珍しくて

私は停車した車内で大騒ぎ

だけどホントは

あなたが隣に居るから

それが嬉しくて仕方なくて

何時も以上にはしゃいでた

あなたと手を繋いだまま

ジュースを飲み

おにぎり食べて

ゆっくり車が動くのを待つ

赴きある旅館を見つけ

ここに泊まってみたいな、と

流れる小川のせせらぎは

夏には蛭がきつと飛び交う

何度も口付けをしよう
渋滞なんて恐くない
あなたが隣に居るんだから
全く退屈しないんだ

【目指せ、ロープウェイ】
辿り着いた先は温泉地
そこにロープウェイもあるらしい

『恋の折鶴伝説』

なんて書かれた看板があり
心躍らせていると
あなたが笑った

「なんだかおまえの好きそうな場所に來たなあ」

良く判ったねえ？
ようやくロープウェイへと足を進ませる
歩いている時も2人はずっと一緒だ
ぎゅーってしたまま歩き続ける

こういう何気ない時間が
私はとっても大好きで
わくわく胸きゅんどきどき
大爆発。

【ツツジ】
ロープウェイで一氣に山を駆け上る

三組が1つのロープウェイに乗り込んだ
幼い女の子がお母さんと一緒に記念撮影
私と同じAPSカメラ
負けじと私もカメラを取り出す
爆笑するあなたをパシヤリ

ツツジが綺麗だね
自然がいっぱいだね

目の前のあなたじゃ物足りなくて
私はあなたの膝に座り込んだ

爆笑し続けるあなただけど
2人で一緒にカメラをパシヤリ

思ったより高い場所へ
思ったより長い時間を
あなたの膝の上で過ごす

綺麗だね

緑が綺麗だね

咲き誇る濃桃のツツジが綺麗だね

大好きだよ、と心で思いつつ
私は笑った

【恋の折鶴伝説】

天気が良い行楽日和
それでも標高をあなどっちゃいけない
ちよっぴり寒い気がする
辿り着いた先には

まだまだ遊びどころが満載

小さな動物園を並んで歩いて

途中の神社でお祈りして

水芭蕉の水辺を通り抜ける

途中で『恋の折鶴伝説』詳細発見

昔身分の違う男女が互いの運命を悔やみ

心中するつもりでこの地へ来たところ

一人の僧兵に笑顔で温泉へ入ることを勧められた

2人は温泉に入り、旅館で貰った紙で

鶴を折りお地蔵様にお祈りを

2人は手を繋いで自分の家へ帰ると

2人の関係を話して

末永く幸せに暮らしたそうで

そんなお話

私も鶴を折ろうとしたけど

すでに折り紙はなくなっていた

【傍迷惑なバカップル】

芝生広がる公園で

ぽかぽか陽射しの中あなたと2人

私が作ったお弁当は

実はすでもうなくなっていて

お弁当を広げるベストポジションだったけど

・・・仕方ない

出発前に2人で全部食べちゃってたんだよね

レジャーシート、持ってこればよかったなあ
そしたらごろんごろん転がって
遊べただけだね

道行くカップル見つめつつ

「オレらのほうが仲が絶対いいな」
って笑うあなたの隣

「当たり前じゃん」
って強く大きく頷く私

当たり前です

こちらは最強バカップル
あなたの隣に居る私は
最強です

【最強イベント発生】

その公園の一角
メガホン付きの場所を発見
ちよつとした高台
山に向かって叫ぶ場所

数分躊躇う2人組み

人もまわりにたくさんいる

遠目に見たときは

余裕で叫べると思ったけど流石の私も

・・・ちよつとテレクサイ。

やがてあなたは立ち上がって
・・・本当に叫んだ

「大好きだー！」

・・・まさかね

あなたが先にね

それを叫ぶなんて思わなかったのね

泣きそうになったのね

嬉しかったの。

嬉しかったんだよ。

だから私も叫んだの

「大好きーっ！」

って、お返しにね

人目なんて気にしないの

だってホントのことだもん

2人顔見合わせて

爆笑したんだ

眼下に広がる雄大な景色

青空、うつすらと純白の雲

手を繋いで、後にした

最強イベント、終了

何度でも叫ぶよ

あなたのことを

【届け、想いのすべて】

私の想いを言葉にして

大好きなあなた達に伝えるから

想いを口にするこも

想いを言葉にするこも

想いを文字にするこも

基本はみんな一緒です

私の想いを伝えたいから

私の想いを届けたいから

だから私はこうしているの

それだけだよ

これから始まる私の想いよ

届いて、みんなに

【笑う】

2003/11/25 ↑ 2003年だったらしいです・

・

「なんで笑うの？」

何度この言葉を言われただろう

「偽善者」「お人よし」

って何度言われただろう

ココロでは泣いているのに 表には決して出さない
いつもいつも笑顔で居ること それが私

「女の子は笑顔が三割まし」
「笑う門には福来る」

だから笑っているのです
もう、慣れちゃった

笑うということは きっと辛いことからの逃げで
辛い、寂しくない、へっきだよって

自分で言い聞かせながら まわりに意地を張る
弱い自分を見せたくない 精一杯の強がりなのです

【零れ落ちる涙を】 2003/11/25

ぼろ、と一つ 零れた涙
頭をぼん、と撫でて、ただ、それだけ

ぼろろ、と二つ 零れた涙
指ですくって、ただ、それだけ

ぼろぼろと零れる涙
一つ一つ、無表情で指ですくう

あなたが居てくれて よかった

【おにぎり×2】

「弁当を作ってきてくれ」

あなたはそう言いました

女の子3人呆れた顔で「却下」

でもあなたにだけ特別に

おにぎりを作っていったのです

約束したからね

頼まれたからね

唇尖らせて差し出した二つのおにぎり

あなたの為に作ったおにぎり

後方から文句が飛ぶ

「なんで二つしかないの!？」

申し訳ありませんが私は

好きでもない男性に手料理差し出す事はいたしません

あなたは片方のおにぎりを渡しました

「渡しちゃヤダ」

言えば良かった

たかがおにぎり、されどおにぎり

小さくても簡単でも

私の想いが詰まってたんだよ

【夢色気分】 2004/04/27

好きなもの ハンバーグ

子供みたい

大きなハンバーグ

ライス大盛り

目玉焼きをのつけて
スープ也大盛り

暫くしたら「多すぎた」ってなんですか、それ
子供みたい 子供みたい

子供みたいって言ったら
子供に言われたら世界の終わりだな
って不貞腐れて私のあたまをくしゃくしゃする

おっきい手 おっきい手
あつたかくて おっきい手

大好きな手
大好きな声
大好きな顔
大好きなあなた

幸せ一杯夢色気分
また一緒に遊びましょう

【心内】 2004/05/03

背中を誰かに押してもらわないと動けない
声が聞きたいのに電話が出来ない
勇気をください、電話をかける勇気をください

水族館に連れて行ってくれるって
数日前に言ってくれた言葉、信じていてもいいですか？
あと、三日しかないのです

遊ぶ予定を立てたいの
色んな人に誘われるの
全部断ったの

あなたがいつ水族館に連れて行ってくれるか
判らないから

全部断って、自宅の近くから動かないの
いつでもあなたからの誘いを受け取れるように

声が聞きたいの

水族館にいけなくてもいいの
あなたに会って、ぎゅっ、てしたいの

それだけのなの

【雨模様、心模様、土砂降り】 2004/05/05

行きたいところは水族館

水族館に行きたいの

水族館に行けばいいの？

違うのです

「あなたと一緒に二人の水族館」

に行きたいのです

他の誰かじゃ駄目なのです

雨が降る、憂鬱な昼下がり

帰って来ないあなたの代わりに

他の人と2人で映画

あなたはそれを知ったら
微かにやきもち焼くのかな？

あなたと行きたい水族館
願いは叶わないみたいです

《一日の終わりの感想》

悲しいことがありました
だから泣きたくなくなりました

人前で泣きたくなくて
唇を噛み締めて俯いて
おうちに帰って泣きました
バスタブの中で泣きました

バスタブは大好きなピーチの香り
たくさん泡立てて洗いましょう
大好きな香りに包まれて
嫌なことを忘れましょう

お風呂から出たらあなたからの連絡
急いで着替えておうちを飛び出し
あなたの元へと駆けつける

あれだけ嫌な気分だったのに泣いてたのに
あなたに会えたら笑顔笑顔
笑顔であなたに抱きついて

今日も一日幸せでした、と祈ってみる

単純だけど、幸せなのです
終わりよければ、全てよし

《鏡合わせ》

「あなたは優しすぎるんだよ、怒っていいんだよ」

何度言われたことだろう

でも、自分じゃ優しいのかどうかなんて分からない
優しいんじゃないくて、自分ではこう思うのです

「意気地なし」

人と争うのが嫌いだから身を引いて

人に嫌われるのが怖いから何も言えなくて

本音を言っているようで自分をひたすら隠してる

卑屈で卑怯者の私だから

みんなが私のことを大好きだと言ってくれてもね

本当は自信がないのです

生まれ変わるなら今度は

本音が言える素直な子になりたいな

だから多分、本当の私はあなたは知らないのです

【恐怖の夜】 2004/05/07

喉の奥で言葉が止まる

「どうして連絡をくれなかったのですか」
連絡がなかったから

私に飽きたんだろうなと思って
連絡をするのをやめてみたけれど
結局は自分から連絡して
また返事がなかったら
自分が傷つくから逃げたのです

背中を押されて連絡を試みたら
あなたはすんなりお返事くれました

「楽しみにしてたのにごめんね。土曜日は空いてる？」
楽しみにしてました

土曜日も空いてます
というか空けておきました

ごめenneって思ってくれてるのですか？

私が連絡しなかったら結局

水族館へはいけなかったんじゃないのかな？
そしてまた夜が来る

土曜日、ちゃんと水族館にいけるかどうか
恐怖の夜が来る

【叶わない約束】 2004/05/15

約束をするのは大好きで

約束がないと生きていけなくて

約束があるから生きていけて

それでも

あなたと出会ってから

あなたと約束するのが怖くなった

叶わない約束
何度あつただろう

約束は何度が交わしたけれど
護られた約束は一握りで
約束が欲しいけれど
怖くて約束できないの

今度は何時会えるの？
本当に行ってもいいの？
プレゼントあげてもいいの？

・・・でも、好き

【約束】

理想の男性像とはかけ離れた人を好きになる
好きになることに理屈はいらない
もし今誰かに「どんな人が好きなのか」と聞かれたら

「約束を破らない人が良いです」

そう言おうと思うのです
ねえ大好きなあなた
約束、護ってくれてありがとう
やっぱりあなたのこと
大好きだよ

【イルカさん】 2004/05/09

イルカのショーを見る

2人ではしゃいで一番前の席に全速力

「稀に水がかかることがあります」

水槽に看板がかけてあった

三台のカメラの映像がスクリーンに映し出される

2人して大きく手を振って映してもらおうように努力努力

隣の家族がスクリーンに映し出された

ショーが始まる、イルカさんが飛び跳ねる

水が物凄い勢いで飛んでくる

2人してびしょびしょだ

稀どころか確実に水が飛んでくる

「『あのバカカップルに水かけてやれ』ってイルカが会話してたぞ」
バカカップル

・・・イルカさん、水かけてくれてありがとう
バカカップル？

光栄な単語をありがとう♪

【3日後】 2004/05/16

好きな食べ物

お肉

刺身

甘いもの

お酒

好きな事

剣道

身体を動かすこと

良く考えてみたら、私

あなたのこと良く知らないのです

何をあげたらいいんだろう

気になることがあるのです

何時もあなたがしているペンダント

・・・誰から貰ったものだろう

だからアクセはあげないのです

さて、何をあげようかな

声が、聞きたいと思う昼下がりに

一週間前は一日中隣で2人で居たのにね

そろそろ充電が切れそうです

会いたいな、あなたに

【声という名の安定剤】 2004/05/18

電話が来たの

待っていた着信音

どの音でもダメで

この音じゃなきゃダメで

私は軽く口ずさむ

♪止まらない恋はもう止めちゃいけない♪

10日ぶりに聞いた声

かつこよくて

かわいくて

安心できて

大好きな声

くすぐったいね？

楽しくて嬉しくて

だから言っの忘れたの

「声が聞けてよかった」

私は幸せ一杯ご機嫌で眠りに就く

お布団で会話を思い出す

ケーキ、ちゃんと作るから全部食べてね？

お前がいらないと意味ないから

・・あれ、今度は

嬉しすぎて眠れない

早くあなたに会いたいね

《ふたりぼっちの過ごし方》

窓の外、雨

月明かり、なし

薄暗い部屋、あなたの寝息

慣れてきた瞳、あなたの寝顔

私の右手、あなたの頬

あなたの髪、映える銀髪

整った顔立ち、輪郭なぞり

そつと唇、指でなぞる

自分の唇、その指でなぞって

唇と唇、そつと合わせる

お布団の中、再びもぐって

あなたの手を取り、ぎゅっとして

無意識のうち、あなたが私を捕まえて

ふたりくっついて、朝までずっと

ふたりぼっちの過ごし方

【正夢】 2004/05/21

目が覚めたら友達からのメール
起こしてくれてありがとう

カーテン開けたらお日様の光
雨ばかりだったから久し振り

ふわふわの泡で洗顔を
冷たいお水が気持ち良い

鏡観ながら思わず吹き出す
だって私、にやけている

今日ね、夢にあなたが出てきたんです
とてもとても、嬉しかったのです
夢の中の私はとっても楽しそうでした
きつと眠る直前にあなたがくれたメールのお陰

内容は話さないの

だって、正夢になって欲しいから
話したら、正夢にならないんだよ？
話したいけど、誰にも言わない

【イチゴのケーキ】

9日遅れのお誕生日ケーキ
何を作ろう、あなたの為に

「で、ケーキ何作ってくれるの？」

「んとねー、ババロア好き？」

「ババロア？ 好きだけど、オレはイチゴが入ってるやつが好きだ」

「じゃあ、そっち作るー」

「二つ作ってよ」

「ちゃんと食べてくれる？」

「食うよ、辺り前だろ」

9日遅れのお誕生日に
私がプレゼントするもの

ハート型のイチゴのケーキ
ハート型の黄桃のババロア
世間話を書き綴ったお手紙
私の想い、私そのもの
ちゃんと全部受け取ってね
他の人に食べさせないでね？

【くつつき虫】

優しそうな目
意地悪そうな目
人懐っこい目
私だけが映ってる目

意地悪な唇
優しい唇
素敵な声を出す唇
もつと喋って
もつと私の名前を呼んで
もつと一杯口づけて

あつたかくて大きな手
私の手を握る大きな手
歩く時のご飯の時も
運転中も眠るときも
ずっと一緒の手

抱きしめてくれる腕
抱きしめられると落ち着くの
くつつき虫、くつつき虫

あなたと離れたくないんだもの
大好きなんだよ
好きなところ、まだまだあるんだけれどね？

【嫌いな時間帯】

一人の夜は嫌い
あなたと居る夜と全然違うから
お布団の中で私は独りぼっち
冷たくて寂しいから嫌い
あなたが居る夜ならば
朝が来なければいいのにと願うくらい好きなのにね

あなたと居ない昼間が嫌い
隣で笑うあなたが居ない
私を抱きしめるあなたが居ない
何をしててもあなたを思い出す
隣で手を繋いでくれるあなたが居ないと
どうしてこんなに不安になるの
あなたが居る昼間なら
何時間でもあなたの隣で
笑って怒って居られるのに

結局、あなたが居ない時間帯は
みんな嫌いってことになるのです

【長い時間と短い時間】

時が流れるのが遅い
あなたに会える日

ずっとずっとまだ遠く
時間が過ぎてくれないの
手帳を見てもまだ先のの
溜息ついて、手帳を閉じる

そしてきつと、あなたに会えたら
楽しくて嬉しくて愛しくて苦しくて
すぐ時間なんて過ぎちゃうんだね
ずっとずっと一緒に居られたらいいのに
あなたの声が毎日聞けて
あなたの顔を毎日見れて
そんな日が続けばいいのに

そしてまた手帳を開く
次にあなたに会える日を探して

【ときわく。】

ときどき
しながら服を選ぶ

わくわく
しながら時が過ぎるのを待つ

ときわく
しながらあなたに会う

ときわく、ときわく
早く私を迎えに来てね
心臓が壊れる前に

【恋を抑える特效薬】

ほわほわした髪を撫でる

子犬みたいな人懐っこい瞳を見つめ返す

私を捕えて狂わせる瞳から視線を逸らす

無邪気な笑顔

勝気な笑顔

不意に真顔

途端にアホ面

子供みたいな仕草

大人びた仕草

子供っぽい言葉

大人っぽい言葉

私を呼ぶ声

声を発する唇

あつたかい腕

離さない指

・・・恋を抑える特效薬、効き目、なし

【楽園】

あなたの隣で目が覚める

小さな寝息をたてるあなたの頬に口付け

朝の楽園

あなたの前で食事する
美味しいって食べるあなたに小さく微笑む
昼の楽園

あなたの横で手を繋ぐ
はぐれないように人ごみをすり抜けて
昼下がりの楽園

あなたにぎゅっとくっつく
お願いよ離れないでこうしてたいの
夜の楽園

あなたが傍にいるのなら
そこが楽園

《みるきーうえい》

瞳を閉じて 手を伸ばして
ほら 見えるでしょう？
河の向こうの あなたの姿
待っててね すぐそこへ行くから
膝を水で濡らして そこへ必死で駆けよるの
置いてかないで 行かないで

彦星と織姫 念に一度しか会えないなんて
そんなの私 耐えられない
私だったら きっとこうする
あなたに会うために 努力するわ
橋を作るの 河を渡るの

あなたに会いたいから

【あなたのおうちへ】

あなたに電話　眠る前に声聞きたくて
数回のコール　もしかしてお風呂？
数回目で電話が繋がる　ちよつと安堵

・・でもね
声が変なの

風邪引いた、ってあなたの声
辛そうで心配で

今すぐあなたのものへ駆けつけたい
そしたらいっぱいキスをして
そしたらきつと私にうつるから
そしたらあなた、治るでしょ？

電話直ぐ切ったのに　すぐメールが届く
「ごめんね　明日電話するから」
優しいあなた　今すぐ飛んで行きたいよ

どうか神様、あの人の風邪が早く治りますように

《理想の女の子》

過去からの因縁
未来への伝言

好きな人に嫌われないように傍に居たい
好きな人の邪魔にならないように祈り続けたい
特別な力なんていらなくて普通でありたい
好きな人の役に立ちたい

ちよっと思いが変わつたみたいです
もし、好きな人が自分のことを好きだと言ってくれたなら
それはとても胸をはってもいいことで
そんな自分を嫌いだと言っては好きな人に失礼なので

自分のことを大事にして
自分のことを好きになって
自分が少しでも可愛くなれるように言い聞かせる
自分に魔法をかける

理想の女の子は
自分のことが好きだ、と言える女の子

【コエのマリヨク、キミのフシギ】 2004/06/26

あなたに会いたくて会いたくて
苦しい夜はあなたの笑顔思い出そう
瞳を閉じて思い出そう
私の名前を呼ぶ声を
私の頭を撫でる手を
私を抱きしめる腕を
思い出せるでしょう？ 完璧に

意気地がなくて電話もメールも出来なくなつた時は
情けない臆病者だけど

あなたと私の写真を見つめながら
お布団で眠りにつきましよう

せめてコエさえ聞けたなら
私の体力は完全回復
明日、電話してみよう
あなたに魔法をかけてもらわなきゃ

【あなたの事】 2004/06/28

会っているときも
会えないときも
私の頭の中は
あなたのことで
一杯なんです

悔しいくらいに
一杯なんです
友達と会っても
あなたのことを思い出す

会いたいな、本当のあなたに
早く会って、飛びつきたいよ

【切なさ、苦しさ、愛しさ】 2004/06/29

写真を手に取る
部屋に数枚飾つてあるの
手帳にも挟んであるの
あなた専用のアルバムもあるの

みんな笑顔大好きよ
プリクラを見つめる
ケータイの裏と
プリクラ手帳
ケータイの待ちうけ画像
二人一緒に私は笑顔

電話して声を聞いた
嬉しかったわ、眠そうだったけど
でもね、余計切ないわ、苦しいわ
やっぱり、会って目を見て話したいわ
あなたに触れながら話したいわ
切なくて、苦しくて、愛しくて
泣き出した、私

【神様へのお手紙】

好き過ぎてくるしーのです
ずっと一緒にいたいのです
ねえ、神様がいるのなら
どうかこの願い
叶えてください
一緒にずっと、いたいのです

【七夕】 2004/07/04

「ずっと遊べますように」

七夕の短冊に書いた願い事
昼下がりのショッピングセンター
一階にあった大きな笹
願いを込めて、短冊一枚
私の名前を最後に書いたわ
あなたの名前を最初に書いたの

あなたに会えなくてももう二週間
半年も会ってないみたい
会えないと不安になるなんて
もしかして初めてね
会えなくて寂しい時はあったけど
不安で苦しくて心配で怖いのは
あなたが初めてよ

織姫と彦星が7日に会えるように
てるてる坊主を作るから
だから私とあの人も
7日に会わせてください

短冊に、そう書けばよかったかしら？

【閉ざされた川】 2004/07/08

天気だって言っただじゃない
晴れだって言っただじゃない
なのになんで雷鳴轟くの？
これじゃ天の川、見えないじゃない・・・

連絡が来ない、やっぱり飽きられた？
悲しくて怖くて、強がったメールを試してみた

「無理しなくていいからね」

こんなこと言わなければ
今も一緒に居られたの？

でもねでもね、あなたは会いに来てくれた
とても嬉しかったのよ
本当に本当に嬉しかったのよ

彦星と織姫は会えなかったけれど
あなたと私は会えました
・・・怖いくらい、嬉しかったの

【信じる心】 2004/07/08

無邪気に笑う私をカエシテ

何時からこんなにコワクナッタ

今までこんなことナカタジャナイ

記憶がヨミガエル

大好きな人がトラレル

怖くて怖くて仕方がナイ

あなたは優しくて

あなたは可愛くて

あなたはかつこよくて

きつと私イガイニモ

仲のいい子がイルンデシヨウ？

怖くてキケナイ

怖くてキケナイ

何時も何をシテイルノ？

あなたからの嬉しいコトバ

信じたいのにシンジラレナイ

以前の私なら、全てをシンジテ

舞い上がっていたノニネ

・・・どうしてかな

《天の川、夏の大三角》 2004/07/08

曇り空

あなたと見たい

天の川

曇って星は

目には映らない

けれどもその雲

上空で

無限に広がる

天の川

大きく羽ばたく

白鳥

待ち焦がれた

恋人達は

ちゃんと出会えてる

あなたのお城で

私とあなた

2人きり

彦星と織姫には

なりたくないから

ずっと一緒に居たいです

【キモチの色、青色気分】

2004/07/08

あなたが好きです
とっても好きです

判ってもらえませんか？

誰にでも懐くから

誰とでも会話するから

疑っているのですか

好きもちろん、大好きは

あなたにしか言ってます

あなたのことしか考えてません

あなた以外の男性と出掛けるのは嫌です

あなたに振り向いて欲しくて必死なのに

素直にキモチを言うたび疑われ

強がってキモチを偽るたび信じられ

どうしたら伝わるの、この想い

考えれば考えるほど

不安で怖くて辛くて泣けてきて

どうしたらいいのか判らなくなるよ

【甦れ、私の理想】

2004/07/08

自分のことが好きだ、と言える女の子になりたい

自分のことが好きじゃないのに

人のことなんて好きになれない

人に好いて貰うなんて無理だから

甦れ、私の理想の女の子

全然近づけてないじゃない・・・

欲しいものは欲しい
会いたいなら会いたい
こうしたいならこうしたい

ちゃんと口で言いましょう

無様な強がり

恐怖からの逃げ

馬鹿な意地張りは

不安の疑心は

捨ててしまえ

頑張れ、私

もう一度、頑張って

・・・全てのコトバを信じるなって言うけれど
やっぱり、信じてないと私は
ダメみたいです

【短冊】 2004/07/08

「ずっと遊べますように」

「ずっと一緒に居られますように」

「たくさん遊べますように」

書けなかったの本当のこと
本当の願いはね

「これからもずっと一緒に居たいです」

あなたの恋人になりたい、っていうことなのです
叶わないと思ったから

書かなかったの

馬鹿な私

【会いたい】 2004/07/09

願うことはこれだけ

「あなたに会いたい」

5分でいいの

どこかへ行かなくてもいいの
ただ車の中で話がしたいの

声が聞きたい

髪を撫でたい

肌に触れたい

抱きしめたい

口付けしたい

あなたじゃなきゃ嫌

こんなことするのはあなただけなの

ねえ、私のこと

どう想ってくれてるの？

みんなの警告を無視して

私がつた行動の罰

軽い女に見られたのかな

でも、好きで好きで仕方がないんだから

どうにも出来ないんだもん

キモチに嘘はつけません

会いたい会いたい、ただあなたに

【キオク】 2004/07/09

苦しくて切なくて泣ける夜は
楽しい思い出思い出そう

笑うあなた

気楽な会話

他愛のない約束

大きな手

あったかい腕

真面目な声

アホっぽい声

思い出して眠りにつこう

夢に出てくるかもね

キオクを鮮明に思い出して

・・・辛い現実には現実だけにして

《白い絵の具をありがとう》 2004/07/09

真っ黒になったキャンパス

もう何が描いてあるのか判らなくて

一人ぼつんとその前に立ち

はらはら涙を零していたら

優しいあなたが白い絵の具をくれました

大きな暖かい手で白い絵の具をくれました

変わらない笑顔で渡してくれました

私はその白い絵の具で

あなたの隣で絵を描きましょう

大丈夫大丈夫

失敗しても大丈夫

隣を見たらあなたがいるから

微笑んだまま支えてくれる

白い絵の具を持ってるあなたがいるから

白い絵の具をありがとう

【届け、想いのスベテ】 2004/07/11

あなたに届け、私の想い

他の人に誉められても

他の人に羨ましがられても

他の人に何を言われても

他の人に好きだと言われても

他の人に代わりになると言われても

私が紡ぐ全ての言葉はあなたの為に

私が紡ぐ全ての言葉は唯一人のあなただけに

あたに届け、私の想い

他の誰も要らないの

私が必要なのはあなたなの

挫けそうな時のほうが多いけれど

あなたの存在と今までの言葉が
私を前進させる

・・・諦めたくありませんから

届いて、私のこの想い
愛するあなたにだけ

【無理な願い】

飽きたなら飽きたと
伝えてください
今の状態よりは
きつとましなのです

どこで歯車が違ったんだろう
3週間前に戻りたいよ
毎日のメール
毎日の電話

私そこまで強い子じゃないんだ
強がって無理して「いいよ」って言うっちゃうけど
寂しがり屋で怖がり屋で不安ばかり頭に残るから

ここまで来るともうダメなの
・・・また私は都合のいい女になるの？
あなたと離れたくないけれど
・・・また同じ道を辿るの？

夢を見たの、誕生日に私とあなたは2人で居るの
・・・あと少しだけど、その少しが私に耐えられるかどうか、判ら

ないの

3週間前に私を誰か戻してください

【元気の源〃あなた】

2004/07/11

元気がない私

友達が言うの

「元気なキミが好きだよ」

みんなが口をそろえているの

ごめんね、大事なみんな

心配かけてごめんね

キモチが嬉しい時は、いつも笑顔なの

煩いくらいに笑顔なの

でもね、落ち込んでいるときは

鬱陶しいくらいに、泣いてるの

もう少し泣かせて？ 頑張るから

みんなの為に元気な私でいるからね

単純な私の元気の源

笑顔か泣くか、原因となるもの

大好きなあの人から

メールがこれば

電話がこれば

会うことが出来るなら

私は完全回復できるから

もう少し待っててね、あの人に会えるまで

【お弁当を作り始めました】

あなたに、お弁当を作り始めて早二ヶ月。

毎日毎日、美味しいとメールをくれるあなた。

だから、頑張ろう、って思うのです。

毎晩の手料理を軽くアレンジしたただけけど、それでも、美味しいと言ってくれるあなた。

とても、とても、嬉しくて。

喜ばせたいから、工夫する。

明日も、作るうあなたへの、お弁当。

2011.11

【君のコトバ、ひらひらと】

・・・やっぱりまだ、心のどこかで好きなんだ・・・

ひらひら、ひらひら

・・・声が、聴きたいから・・・

ひらひら、ひらひら

君のコトバ、ひらひらと
私の心にふわふわ、と

けれど、私は君の事
大事な大事な人だけど
もっと傍に、居たいけど

恋愛感情ではないのです
ひらひら、ひらら

私の大事な大事な君へ
大事なものは、ホントです
けれど、私の感情は恐らく恋愛感情ではなくて

永遠の、友情、なのです
大事な、大事な君へ

ちゃんと、私は居るよ。

2010/11/19 (Fri)

【らいらいら。】

今日のお昼は、ラーメンを

あなたがよく行くラーメン屋さん

一品料理の数も豊富で、安いからと
常連ラーメン屋さん

一度、あなたと会社の人と食べた事がある

二、三度酔ったあなたを迎えに行った事がある

車を停めて、お店に入る瞬間にあなた、一言

「・・・こういう小汚い店はさ、おまえに似合わないんだよ。

もっとお洒落な綺麗な店に居て欲しいんだけど、本当にここでもいいの？」

らいらいら。

あなたは、未だに、私の事を、解っていない。

小汚いお店のほうが、独特の味が出てて美味しいお店が多いのよ？

そして何より、私は。

綺麗で可愛いお店は好き、でもね。

”あなたが重要なんだ”

・・・らいらいら。

今日のお昼は、ラーメンを

あなたがよく行くラーメン屋さん

一品料理の数も豊富で、安いからと

常連ラーメン屋さん

一度、あなたと会社の人と食べた事がある

二、三度酔ったあなたを迎えに行った事がある

車を停めて、お店に入る瞬間にあなた、一言

「・・・こういう小汚い店はさ、おまえに似合わないんだよ。

もつとお洒落な綺麗な店に居て欲しいんだけど、本当にここでいいの？」

らいらいら。

あなたは、未だに、私の事を、解っていない。

小汚いお店のほうが、独特の味が出てて美味しいお店が多いのよ？

そして何より、私は。

綺麗で可愛いお店は好き、でもね。

”あなたが重要なんだ”

・・・いろいろ。

2009/05/31

ことば

貴女が「ことば」について語っていた
その通りだと思いました

とても、素敵な考え方だと思いました

けれど

そんな素敵な貴女が紡いで来た”ことば”達が
・・・くすんで見えたのは何故でしょう

ことばで想いを紡げる貴女なら

ことばがどれだけ素敵なものか知っている

ことばで人と繋いでいる貴女なら

ことばが使い方によってはどこまで残酷に叩き落せるか知っている

起きて下さい

多分、貴女はそんな人ではない筈です

遠い遠い、場所から

貴女の紡ぐ言葉を待つ人がいるでしょう

綺麗なことばで綺麗なことを詠わなくてもいいけれど
思ふことを詠えばいいと思うけれど

ことばを良く知る貴女なら、ホントは解っているでしょう

大事な言葉

繋ぐ言葉

接する言葉

貴女が紡いで来たことばを、詩を

・ ・ ・ 汚して欲しくはないと願う人物が
最低でも一人は居るという事

どうか、届きますように

貴女に、どうか届きますように

【五回目の「お誕生日おめでとう」】

まさか、誰が

五回もこの言葉をあなたに伝えられると

あの時、思っていただろう

多分、誰も思ってたなかった

あなたはもちろん、私も思ってたなかった

4回目の誕生日に貰った、あなたからの手紙を今読みながら
これを書いています

ああそうか、この時点であなたは
私に意味不明な事を言い出したら止める、と
忠告してくれていたんだね

止めました、頑張つて止めました
ただ、止めた時に私の心が弱くなりました

『辛くなったらちゃんと言えよ』とあなたが言うので
・・・そうだね
ちゃんと言わなきゃダメだね

『だから、別れる事はないよ。
俺が死ぬか、お前が死んだ時だけだ』
そうだね、そうしなきゃいけないね

私よりも心が弱いあなたは

挫けるとすぐに八つ当たりをしてくれます

思うようにいかないと、子供みたいに駄々をこねます
何を言っても私が受け止められると

多分そう思っているのだろうけど

一応私も、そこまで強くはない・・・と思うので

もう少し労わって欲しいな、と思うけれど

でもね。

やっぱり私のほうが強いんだろうね

あなたが言うように

「お前じゃなかったらついてこれてない」
っていうのは、私が強いから、なのかな

強いのは心じゃなくて

あなたへの想いでした

あなたへの想いが強かったので

ここまで来たんだと思います

ただ、強い想いもあなた次第で一気に弱くなるんだよ

だから。

頑張ろうね。

どんな結果が待っているても、頑張ろうね。

二人の願いが叶いますように

二人の想いが叶いますように

私からあなたに、想いを込めて

「どうか、来年もあなたにお誕生日おめでとう、と言えますように」

【五回目の「お誕生日おめでとう」】（後書き）

2008/05/23（Fri）

【ただいま、メールが混みあっております】

お誕生日おめでとうメールが

何故か今年、こぞって0：00過ぎに四個も届いたので
一人で爆笑しつつ

大事な大事な龍の巫女様ありがとう

大事な大事な旦那様ありがとう

大事な大事なお兄様ありがとう

大事な大事な親友さんありがとう

とても、幸せ

素敵な人たちに囲まれてて、幸せ

『お誕生日、おめでとう』

あなた達に会えて、とっても嬉しくて、幸せなのですよ

【キミスキ】

君の歌声を思い出しつつ

君から貰ったお守り横に

君とのプリクラ目の前に

パソコンから聞こえる君の声で

君との交換日記を書いてたら

君からおやすみメールが届いた

・・・こういうコトが、すっごく好き。
妙な偶然、嬉しい出来事
うん、明日も元気です。

7 (後書き)

2008/06/03

【偶然？ 必然？】

君が気になるけれど

君に歩み寄ってはいけない気がして

だから一生懸命 離れてた

お誕生日のメールが毎年嬉しくて

待っていると君は必ずメールをくれて

嬉しいのに 私は

君のお誕生日にメールが出来なかった

忘れていたわけではなくて

出来なかった 言いたかったのに

なのに君は 搜してくれて

それでも君は いつも教えてくれて

やっぱり君は 傍にいてくれる

君のことが怖いのです 嬉しいのに

君に頼ってしまいそうだから 怖いのです

2011.9.5

久し振りに綴ってみました

本人にどうか、見られませんか……

なら、呟かなければいいのではなからうかつ

【忘れ去られた手紙】

あなたのお誕生日、一緒に居られないと思っていたので油断してた

無理して逢いに来てくれた

自分の誕生日に、私に逢いたくて一生懸命来てくれた

一緒に夕飯食べながら、ぼそつとあなたが一言

「・・・手紙が、欲しかったんだ」

君に手紙を書いていた

たくさん長々と書いていたの

あなたに手紙を書くのを

・・・忘れてたの私

戻らなくちゃいけないのに

戻るべき場所はあなたなはずなのに

一つ、二つ、三つ

心で何かが音を立てる

2008/05/19 (Mon)

【魔法を使ってみたりとか】

友達が何度か言った事
家族が何度か言った事

あのね、私ね
怖くて怖くて、出来なかったの

失うくらいなら、中途半端でいいから一緒に居たい
消えてしまうくらいなら、このままがいい
先に先に、延ばしてきたの

ただ、ただ、あなたが消える事が怖くて
ずっと、ずっと、傍に居るために
私が取った方法でした

時計の針が0時を告げる
魔法が解けてしまう前に
魔法が解けてしまわないように

魔法で現実にしなきゃ

2008/05/08 (Thu)

【詩と心】

常に向かい合わせ
鏡の中で、二つは同じ

なんて解りやすい世界

今思えば、私の行動のあれもそれも
全ては心の弱さから

暗示をかけるために、必死で詩を探してた
詩を読んで暗示をかける

大丈夫、大丈夫と、暗示をかける

とりあえず、一人で叫んでみた

とりあえず、一人で泣いてみた

とりあえず、一人で落ち込んでみた

とりあえず、一人で小説の主人公を羨んだ

あなたと一緒に、居たいんだ
怖くても、一緒に居たいんだ

心と詩は隣り合わせで向かい合わせ
心が悲鳴を上げるなら
詩が比例して増えていく

・・・みたいだ

2008/05/08 (Thu)

【ちょっと君にお手紙を】

もし。

あの人が失敗してしまったら。

君に私は。

三度目の助けを求めていいですか？

それはやっぱりずるいと思うのだけど。

優しい君なら、私を解ってる君なら。

必ず助けてくれるので。

万が一の時、助けてください。

君は笑って手を伸ばすんだろうな。

「良く頑張ったね、もういいよ」

って、言ってくれるかな。

でも、まだそんなことは、私考えないよ。
うん、大丈夫だよ。

2008/05/08 (Thu)

【手を伸ばした先に】

胸に突き刺さったものを、取り払うには
何が必要なんだろう

あなたの言葉が消えなくて
苦しくて辛くてうろろうと

口にしたら現実になるから
怖くて嫌で言いたくない

緑の娘を救ってくれた濃紺の魔法使いなら
この胸に刺さっているものを、取ってくれる？

ので、君に助けを求めた
君なら私を救ってくれる
それはずるいと思ったけど
私には君に助けを求めた

二度目の、助けを求めました
救ってくれてありがとう

胸に刺さっているものは、きつと抜けたよね

2008/05/08 (Thu)

【あなたに願いを】

大人しく待つてるのは性に合わない
でも、大人しく待たなきゃいけないくて

あなたが言うように

私が思うように

あなたのことを一番解る私だから

あなたが失敗しそうだと思ってしまう
私が隣に居ないので一人ぼっちで
がむしゃらに進んでしまいそうだから
それがとても怖い

あなたの帰りを待っているから
だから、ただただ、あなたは

二人一緒になれるようにと二人の願いを叶えて来てね
頑張って

2008/05/08 (Thu)

【多分大丈夫】

「考えるのは、一緒に居ることだけ。それでいい」

あなたが、言った。

あなたは、言ってくれた。

何やってる、私。

浮上しないと、早く早く。

心を落ちつかせよう、言葉を想いを思い出そう。

君の言葉を、思い出そう。

『オレに任せろ。オレが必ずくつつけてやるからな』

・・・そうだ、君がいるから、大丈夫。

私には、君がいる。

あなたと居る為に、助けてくれた君がいる。

・・・もう大丈夫、私、きっと、大丈夫。

二人がいるから大丈夫。

2008 / 05 / 08

【お御籤の暗示をかけたいのだけど】

おみくじを、見た

何枚もの『大吉』のおみくじを、見た
読み直す、読み直す

大丈夫、大丈夫

怖がるな、怖がるな

・・・なんで、怖いんだろう。

怖いのは。

お御籤を疑いたくなるのは。

あなたが。

あなたと。

いられなくなったらどうしようという。

考えが。

消えてくれないから。

おみくじ、おみくじ、暗示を戻せ

自分で自分にかけてしまった暗示を。
お御籤通りに戻さないと。

早く、戻さないと。

2008/05/08 (Thu)

【ぎゅ。】

ぎゅっと前から抱き締められる。

あったかいので胸に埋もれて幸せ気分

ぎゅっと後ろから抱き締められる。

居心地良くて、安心気分で夢心地

座ってるあなたをぎゅっと前から抱き締める。

ぽふぽふ背中と頭撫でて、思わず笑顔で髪に口付け

座ってるあなたをぎゅっと後ろから抱き締める。

頬と頬くつつけて、「しゅきしゅきー」って言うのです

ぎゅ。

いつも、ぎゅ。

するのも、されるのも、とても、好き。

2008/03/19 (Wed)

とても大切な君へ

【バレていた】 2008/05/05 22:53:31

まさか君が

真っ直ぐ迎えに来てくれるなんて思わなかったの

で冗談抜きでびっくりしたので

よく、あそこにいるってわかったね？

「解るよ、オレだから」

って言うって笑う君は、案の定凶悪でした
でもホントに、よくわかったね

私の意味不明な居場所のメール
でも君は迷うことなく迎えに来ると
手を差し伸べてくれました

何故、私だとわかったんだろう
何故、迷いもせず名前を呼んだんだろう

いきなり驚いたのでした

【君の手の繋ぎ方】 2008/05/05 22:50:11

君と手を繋ぎました。

あれ。

やっぱり、別に嫌じゃないね。

それは君だからか。

何処かの小説の主人公が言ってたね

「触っても平気なんだよね」

そう、平気でした

むしろ、心地良かったです

あったかくて、好き

危ない道、狭い道、手を背に当てて、私を隠してくれるトコとか
軽く指を動かして、もしよもしよするトコとか

・・・全くホントに君は。

・・・君だよな。

恐ろしく、しつくり来てしまったので

ついつい甘えておりました。

【君の歌声】 2008/05/05 23:01:01

君の声は大好きです

大好きな声が生で聞けたので

嬉しかったけど

歌が聴けるなんて思わなくて

その歌の選曲はちょっとズルくないだろーか、とか思いつつも
あまりに上手で切なくて、かっこよかったので

・・・録音すべきだったとか

君にぶーぶーそう嘆いたら

「また、次の機会に録音しなよ」
と言われたので、私は。

私は。

そうしたいなあ、と思いました。
思ってしまった。

最強で最凶の最大の君に。

危うく理性を持ってかれるトコでした。

君の声は・・・危険だ。

でも、また、聴きたいのです。

4 【赤い絆的二人の所有物】 2008/05/05 23:26:4

濃紺と緑の契約は

赤い皮の腕輪にて

赤い絆が二人の契約

心が小さな悲鳴を上げたら、直様助けを求めること
互いが互いを頼ることを

私があげた、お揃いのモノ

君はずっとつけていてくれたらしくて

年季が入った腕輪になってて

それがとても嬉しくて

私は

私はまたまた泣きそうになったのでした

互いに左腕につけて出遭ったその事に
やっぱりやっぱり驚いた

【君と私】 2008/05/05 23:35:13

何故、解ってしまうんだろう

何故、私の考えている事がバレてしまうんだろう

君は何故するり、と私を言い当てるんだろう

どうして、解るの

どうして、解ったの

なんで、そう訊いて来るの

「解るよ、オレだから」

ああそうだね、そうだよ

君は、君だものね

解ってしまうんだ、私の事なんて解ってしまうんだ

だって、私と君だもの

私だって解っていたはずだ

そう、解ってたんだよね、私

【やっぱり】 2008/05/05 22:43:34

優しい君は、やっぱり優しかった

楽しい君は、やっぱり楽しかった

私が「好きだ」と思った君は、やっぱり「好き」でした

君に逢えてよかったです、ありがとう

君にお話出来るなんて思わなかったし、その場ですぐ答えがもらえるなんて思わなかったし

というか、君が訊いて来るなんて思ってたので、私は。

・・・私の事心配してくれているんだな、と泣けました。

だから、ありがとう。

最強で最凶の最大の人。

やっぱり、君は、君でした。

【助けを求めた相手は君なのです】

ガラス越しに

泣かないようにと

私は一生懸命で

君を困らせないようにと

頑張った

お願いだから

その言葉を言わないで

お願いだから

そんなメールを送らないで

お願いだから

けれど、私は

その言葉が、メールが

とてもとても嬉しかったのでした

消えない君の笑顔と言葉

『間違いじゃないよ、だってオレだから』
凶悪に可愛く笑って君が言った言葉
そう、私は君に助けを求めた

言えば、何かが変わる気がして
親友でもなく、友達でもなく、君に私は
助けを求めたのでした

君の前では、泣かない

【結論】 2008/05/06 00:00:21

真っ直ぐ迎えに来てくれた
ずっと身に着けていてくれた
色々連れて行ってくれた
歌が聴けた
手を繋いだ
頭を撫でてくれた
頭を撫でた
訊いてくれた
考えてくれた

ありがとうね、元気出た

数年前のあの日、よく、出会えたよね
あの中からよく私は君を見つけたよね

君の香り、声、仕草、手、笑顔・・・色々、色々
好きでした。

お友達、お友達、大事な私のお友達。
あのね、あのね。

大好きだよ。

【交換日記】 2008/05/06 00:06:29

君に手渡された一冊のノート
例のあのノート
君が考えてくれた二人の契約

交換日記

一ページ目に私の名前が君の字で
書きかけのノート、続きはまた今度
私は二人のぷりくら貼り付けて
君にノートを送り返そう

良いアイデアだね、流石、君
元気づけてくれて、ありがとう。
ホントに、ホントに、ありがとう。

大事な大事な、君へ。

【ヘビーな映画】 2008/05/07 23:15:50

君と映画を観ました
よく映画の話をしていた二人は、一緒に観に行きたくて

君が私と観たいと言った映画を二人で観た
君にとっても、私にとっても重要な意味を持つ映画

ねえ、君。

君はこの映画と一緒に観て、どう思った？
私がどう受け止めると思ったんだろう

君の思惑通りなのか、全く見当違いだったのか
ねえ、教えて

・・・この映画は今の私に重すぎたのです
重すぎだよ

【聞こえないガラスの向こう側】 2008/05/07 23:2
8:4

ガラス越しに君が何か言ってた

私の名前を呼んだのかな
「またね」って言ったのかな

涙で曇った私の瞳では
君が何を言ったのかわからなくて

歩き出してから届いたメール
このメールの単語を君は
口にしていたのかな？

・・・そうなのかな？

そうなの、かな

【つぎ】 2 0 0 8 / 0 5 / 0 7 2 3 : 3 2 : 5 6

ねえねえ君に、また、逢える？

ああ、そうか、私は、逢いたいんだね

君が言った

「次ぎ会うのが遠そうだから」

君は言った

「そう遠くないうちに逢えると思うよ」

・・・ああ、そうだね

君の言う通りなんだ、多分ね

【だって調味料が一つ多いから】

あなたと行った和食屋さん

前から行きたかったけど、時間の都合が合わなくて
ようやく行けたと思ったら

何故行きたかったって

とても美味しくてあなた好みだと思ったから

味覚がほぼ同じで、私が美味しいと思うものが

あなたは美味しいというから

自信を持ってそこへ行った

思惑通りとても気に入ってくれたあなた

嬉しくて私も超ご機嫌

でも、あなたは食べながら言っただよね

「一番美味しいのはお前の手料理だけだな」

愛という名の調味料が多いから

多分私の手料理美味しいんだよ

嬉しくて次は何を作ろうか、ペラペラレシピを探してみる

うん、次はこれにしようかな。

レシピに『愛』を足してね

【Dear My Friend】

始まりは、君からのお誘い

まだ寒い数年前の三月、飲み会を開くという話

そこまで親しくなかったけれど、初めて職場以外で会うことになったね

乗り気じゃない女の子メンバー、けれどもそこで、私が恋をした
そこから急速に仲良くなっただ

何度か飲み会へ一緒に行って、遊園地で遊んで
時折夕飯食べたり、夜中にただ、話をしたり

君は私を「羨ましい」と言ってくれた
恋をしている私が、とても可愛くて楽しそうだから羨ましい、と言
った

恋をしたい、と君は言ってた

暫くして、君に恋人が出来ました

こっそり見に行ったりして、私は上手く行くように願ってた
数カ月後に泣いてる君を見て、私は無性に腹が立った

話を聞いてその男に腹が立ったので、一言文句を言うつもりだった
彼氏に止められたので、止めたけど

君を持ち上げてその気にさせて、消えたあの男が許せなくて

それでも君は立ち直って、新しい人を見つけました

穏やかそうな人で、四六時中仲良くしていたので

私は安堵して見守ってた

不意に君に出会ったら、結婚するって聞いたからおめでとう、って心底喜んだら相手が変わってた

・・・え！？（げきしん）

と、まあ驚きの連続で出会って一年経ってない人と君は結婚しましたね

すごい心配だったんだ

仲良くなつて君を知った、恋してる君を見て解ったことがあった
早すぎない？ 大丈夫？ ホントにいいんだね？ 急いでも意味が無いよ？

凄く不安で、それでも君は楽しそうだった

相手を知らぬまま、式に出席した

相手の人への私の第一声は、泣きながらの

「彼女をお願いしますね」

の、一言。

君の旦那様は私にこう言ったのだ

「はい、もちろんです」

君を、この人に任せましょう、信じて任せましょう
式で流れた、君達の写真

色々なところへ行つたんだね、凄く楽しそうだった
大丈夫だよ、どうかどうか、お幸せに

君は恋をしていました

私とは違つかもしれないけれど恋をしていました

その恋が実りました

大事に大事に、育ててください

どうかどうか、今の気持ちを忘れずに

私の想いを音にして。

今、君に届けるからね

君が旦那様と一緒に居たいと願った想いを忘れずに

君が旦那様と一緒に居て安らげた気持ちを忘れずに

どうかそのまま、一歩ずつ気持ちを増やしていきましょう

そうしたらずっと大丈夫

お幸せに、ずっと、ずっと。

君の幸せな話をたくさん聞けることを願ってます

届け私の想音。

届け、私の大事なお友達へ。

・・・そして私にブーケをありがとう

君があの時誘ってくれなかったら、私は彼氏に出会ってない

ありがとう、ありがとう、数年前のあの日、私を誘ってくれてあり

がとう

私達も、君達のように、ずっと一緒に居られるように・・・頑張るよ

だから、どうか、見守っていてね

君からのブーケは、宝物

2008/03/27 (Thu)

12（前書き）

某ネットゲで書いていた詩です。

1
2

『ふたりぼっち』

冬

寒い夜

暖炉の前

2人ぼっち

毛布に包まって

2人ぼっち

あったかいね

冬

寒い朝

ベッドの中

2人ぼっち

あなたの寝息が聞こえる

2人ぼっち

あったかいね

春

お城の中

あなたの隣で

2人ぼっち

何時も一緒

2人ぼっち

自分の命よりもあなたのことを
最優先

【愛するギルザさんへ】

深藍色の光の騎士様

囚われて死の淵へ

数奇な運命の星の下に生まれた騎士様は
そこから甦る、銀髪の魔族となりて

深藍色の騎士様に救われた一人の緑の髪の娘は

その人の言葉と贈り物と心遣いに心酔し

彼が死の淵へ旅立った数日後

この世界から消え失せた

「もう一度、抱きしめて名前を呼んでくだされば」

緑の髪の娘の最後の願いは天に届き

容姿は違っても魂は変わらずに

銀髪の魔族となった愛しい人に再会する

緑の髪の娘の今の願いは

「この方と最期まで共に」

それだけ

《無言》

ぼんやりと外の窓を見つめるあなた

隣に静かに座って肩にもたれる

優しく肩を抱いて2人で静かに外を見る

そつと頬に触れてみる

そつと頬に口付ける

指で唇をなぞり

そつと唇を重ねる

静かな午後

雨の午後

2人きりの部屋

会話はなくても

瞳で語れる

不思議な時間

《自分を愛するということ》

愛って、なんですか

私は人を愛してはいけないのですか

過去に君以外に、私にこう言った人が居ました

「お前は誰からも愛されないし、愛してはいけない」

君もそう言うのですか？

自分のことを愛せない私は、誰かを愛する資格がないと
君は昨日、そう言いました

では今私の中にある、大事な銀髪の魔族様へのこの想いは
一体何という想いなのでしょう？

私はあの人傍に居たい

私はあの人力になりたい

私はあの人と離れたくない

私はあの人が好き

私はあの人を愛し・・・

誰か教えてください

あの人を愛してるって、言っちゃいけないのですか？

《安堵》

考え事してる隣にくっついて、あなたを見上げるの
頭を撫でてくれてる腕の中で、あなたを見上げるの

笑ってても、真顔でも、ちょっと困ってっても

素敵なあなたの顔は

何時まで見ても飽きませんね

その瞳に私だけ写してください

その唇から私の名前だけ呼んでください

その長い腕で私だけを抱きしめてください

ぎゅって、苦しいくらいが丁度いいの

優しくされたままだとね、あなたを実感できなくて不安なの
私が壊れるくらいに、きつく抱きしめててくださいです
それくらいが丁度いいのです

《ギルザⅡレイ》

鋭き月光、銀の髪

魔界の月、紅の瞳

高貴なる証、額の紋章

整った顔立ち、全てを魅了し

真っ直ぐな視線は魅惑の甘い罠

唇から零れる声は麻薬に似てて

巨大な大剣振るう腕は逞しく
力強くて暖かい私を捕える檻となり
漆黒の衣に身を包んで夜に溶け
その中で私は虜となる

最強にして最凶で最愛の人の名前

《ふたりぼっちの過ごし方》

窓の外、雨

月明かり、なし

薄暗い部屋、あなたの寝息

慣れてきた瞳、あなたの寝顔

私の右手、あなたの頬

あなたの髪、映える銀髪

整った顔立ち、輪郭なぞり

そつと唇、指でなぞる

自分の唇、その指でなぞって

唇と唇、そつと合わせる

お布団の中、再びもぐって

あなたの手を取り、ぎゅっとして

無意識のうち、あなたが私を捕まえて

ふたりくっついて、朝までずつと

ふたりぼっちの過ごし方

《アサギⅡレイ》

あなたのことを考える

あなたのことしか考えない
あなたのことしか考えられない
あなたのことしか考えたくない

あなたが居るからアサギはここに存在し

あなたの為だけにアサギは笑う

あなたの為だけにお料理して

あなたの為だけに詩を紡ぎ

あなたの為だけに飛び回る

あなたの為だけに可愛くなる

そしてもっと可愛くなろう、あなたの為に

あなたの言葉が魔法をかけるの

自信を持って前を向いてあなたに笑うの

あなたが喜んでくれるから

愛してます、あなたを。

そしてあなたが愛してくれるアサギも、愛します。

浅葱

あなたの傍に居られるのであれば

どんな待遇でも私は構いません

例えばあなたの心が私に向いていなくても

あなたの口から「必要だ」と言って下さるのなら

嘘だとしてもそれはそれでとても幸せなのです

例えば周りからやめなさい、と止められても
もし、あなたが気まぐれで欲するのならば

あなたの為に駆けつけましょう

あなたが望むままにどうぞ自由に

あなたの傍に居られるのであれば

私はどんなことでもしてみせます

名前を呼んでください

髪を撫でてください

抱きしめてください

心が通じ合っていないくとも

たまに声をかけてもらえさえすれば

私は幸せなのです

あなたの邪魔になっていないければ

始まりは終わりに、終わりは始まりに

廻れ運命の歯車

あなたの色に私を染めてください

月光の鋭き銀色に一時染まった浅葱色

月日は流れて色は変わる

銀を飲み込み深き藍色が浅葱色を染め上げて

全ては藍色の世界に

藍色の騎士様は私に

「君は優しく包んでくれる。とても癒されるんだ」

そう、言っただけでした

私は、この方についていくと決めました

アサギは、誰かの役に立ちたい
もし、あなたが私の名を呼んでくれるのなら
・・・あなたの、お役に立ちたいのです

《あなたの言ノ葉、私の言ノ葉》

幾つも差し伸べられた腕を振り払い
あなたの腕にそっとしがみ付いた
あなたの言葉が私に響く
他の誰よりも心に響く
心への回復呪文があなたの言葉

私の言葉があなたに触れる
私の存在であなたが癒されてくれるのなら
私にとってそれ以上の幸福はなく
あなたの隣で私がやるべきことは唯一つ
あなたを癒し
あなたを傷つけるものから護り
あなたを傷つけるものと戦う
愛しています、全身全霊をかけて

【辿り着いたのは深藍色の闇】

無限のループから抜け出しましょう。

氷から炎、そして光へと。
光は、気高き闇へと。
過去は過去でしかなく、新たな扉が開く。

「全てを、あなたに」

【嫌いな時間帯】

一人の夜は嫌い

あなたと居る夜と全然違うから

お布団の中で私は独りぼっち

冷たくて寂しいから嫌い

あなたが居る夜ならば

朝が来なければいいのにと願うくらい好きなのにね

あなたと居ない昼間が嫌い

隣で笑うあなたが居ない

私を抱きしめるあなたが居ない

何をしててもあなたを思い出す

隣で手を繋いでくれるあなたが居ないと

どうしてこんなに不安になるの

あなたが居る昼間なら

何時間でもあなたの隣で

笑って怒って居られるのに

結局、あなたが居ない時間帯は
みんな嫌いつてことになるのです

《心の支え》

愛する人の笑顔

愛する人の声

愛する人の存在

隣に居られればそれだけで

太陽を待つ植物のように
それだけで元気になれる

愛するあなたにとって

私の存在があなたを癒し

私の言葉があなたを元気付け

同じ気持ちで居られると

とてもとても嬉しいのです

ねえ、私は

あなたの心の支えになっていきますか？

私にとってあなたは

ずっと以前から

心の支え、ですからね

今も変わらず、ずっとずっとこの先も

【あなたが居てよかった】

一人で膝を抱えて部屋の隅っこ

扉開く音聞きなれた足音

あなたの帰宅

駆け寄る私はうさぎのよう

寂しいと死んでしまうから

寂しくて瞳は真っ赤になるから

寂しがりやのみどりのうさぎ

あなたがいてよかった

何度助けられただろう

何度励まされただろう

何度微笑んだだろう

手に入れた大事なモノが
消えてしまわないように
儚いそれをそつと腕に抱いて
大切に静かに扱うの

あなたと2人でそれを護る
「2人に宿った同じ想い」
というモノを

【どうしたらいいんだろう】

自分の幸せ願うのが我侭でないならば
やっぱりアサギは傍に居たいと思いますです

それしか思いつきませんしー

そつとおいてくださいつて、言うのは

我侭、ですか？

我侭ですよ？

それでも、言いたいのです

・・・ずっと一緒に居たいのです

だつてね、だつてね？

大好きなんですよー・・・。

それだけじゃダメなのですかー？

《みるきーうえい》

瞳を閉じて 手を伸ばして
ほら 見えるでしょう？

河の向こうの あなたの姿
待っててね すぐそこへ行くから
膝を水で濡らして そこへ必死で駆けよるの
置いてかないで 行かないで

彦星と織姫 念に一度しか会えないなんて
そんなの私 耐えられない
私だったら きつとこうする
あなたに会うために 努力するわ
橋を作るの 河を渡るの

あなたに会いたいから

《意地悪×魔族Ⅱ愛しい貴方》

優しいあなた
愉快なあなた
冷淡なあなた
意地悪なあなた。

可愛い笑顔と可愛い仕草
楽しい言葉とお茶目な表情
冷たい視線と大きな腕
からかう言葉と抱きしめる腕

本当のあなたを知るのは私だけで十分で
本当の私を知るのもあなただけで十分で

意地悪で素敵でかつこよくて優しくてあつたかくて可愛くて強引で
楽しくて賢くて頼れて私好みな大好きで愛しいあなた

これから私のこと
いつもみたいに遊んでくださいね？

【アサギ「レイ」】

心に誓いを

決して後ろを振り向くな

自分で決めたことなのだから

進んだその道が誤っていようと
前を見て進むしかない

ただそれでも

隣に愛する人がいるならば

手を繋いで共に行ける

私の魂の存在意味は、彼だけが知っている

《白い絵の具を、ありがとう》

真っ黒になったキャンパス

もう何が描いてあるのか判らなくて

一人ぼつんとその前に立ち

はらはら涙を零していたら

優しいあなたが白い絵の具をくれました

大きな暖かい手で白い絵の具をくれました

変わらない笑顔で渡してくれました

私はその白い絵の具で

あなたの隣で絵を描きましょう

大丈夫大丈夫

失敗しても大丈夫

隣を見たらあなたがいるから

微笑んだまま支えてくれる

白い絵の具を持つてゐるあなたがいるから

白い絵の具をありがとう

《夏の部屋》

蒸し暑い部屋

気だるい空気

あなたの体温

私の体温

2人のベッド

2人のシート

離れない私

上がる一方の私の体温

冷める事無く上昇して

部屋の温度まで上げてゐるみたい

心の温度も上がる一方

暑くても熱くても

私はあなたと離れたくない

朝までこうして

抱きしめててね

あなたの体温

あなたの寝息

あなたの寝顔

安心して眠りに落ちましょう

《短冊見つめて、想うこと》

黒いマントを羽織って出て行く

私の頭を撫でて微笑んで

離れるのが嫌で

マントの裾を思わず掴む

困ったようにあなたは

私をぎゅっと抱きしめた

離れているのは一時だけ

再会を思えば一時の別れも

我慢できる

大丈夫、大丈夫

あなたはもう勝手に消えない

私はあなたの隣で微笑む

永久にあなたの隣に居られる

今日は一人で銀の川へ

2人の短冊見つめましょう

出掛けたあなたのことを
ずっとずっと想い続ける

愛しい愛しいあの人が
早く帰ってきますように・・・

【それだけ】

心に誓いを
心に勇気を
心に想いを
心に全てを

私の全てを想いに託して
君に届けて届いたのなら

その先私が出来ることは一つだけ

変わらずに居ること
大好きなこの気持ちを
変えないということ
それだけ

《一秒》

手を伸ばすの
置いてかれないように

腕を掴むの
離れてしまわないように

でも、そんなことしなくても
あなたはきつと微笑んで
迷子になつた私でも
きつと探しに来てくれる

でも離れたくないの
一秒たりとも離れたくないの
離れている時間が勿体無い

そして私は眠りにつく
あなたの隣で髪を撫でて
頬にキスして眠りにつく
夢の中でもきつと、会えますよね？

【腕の中にて】

眠つたあなたの腕が
私を抱き締めたまま離れない
強い力で私を抱きしめたまま
そのまま眠つてゐるあなた

眠つたあなたにお布団かけて
頬にキスして隣に寝転んだ
あなたは私に気がついて
唇小さく動かした
私の名前を呼んだらしい
そしてぎゅって抱き寄せた

私を探して抱き寄せた

その逞しい腕とあつたかい腕の中で
あなたの香りに包まれたまま私は
これ以上ない幸せに包まれて
眠りについたの

起きたくても起きれないの
あなたが抱きしめてて離さないから
・・・大好きよ

【理】

あなたが遠くへ行くのなら
私もついて行きましょう

あなたがここに居るのなら
私もここに留まりましょう

私を必要としてくださる人が
こちらにあちらに多々居ても

感謝しつつ嬉しく思いつつ
それでも私は

あなたが居ないのなら
ここに居たくはない

あなたが必要であなたが大切に
言い換えれば

あなた以外が不要ない

それが私にとっての理

《Dear My Sweet Darling》

願いを叶えてくれた愛しの人
叶わないと諦めてたけれど
夢のような現実が手に入って

私は毎日が幸せです

あなたを初めて見たときに
あなたが気になっていたのが事実で

何処となく寂しそうな表情と
他人を寄せ付けないような雰囲気と
透き通った綺麗な瞳と
深みのある鋭い声

ゆっくり近づいて近づいて
声をかけたのを憶えてますです
あなたからお返事貰うのが嬉しくて
それだけが楽しみでした

深海のような、深夜の空のような
綺麗な濃紺の瞳は今にも吸い込まれそうで
私は今でもあなたと話するとき
胸が高鳴るんです

優しいあなたはいつも傍にいてくれて
いつも気にかけてくれて
私の色の指輪をくれたり

あなたの形のぬいぐるみをくれたり
御揃いのアイテムをくれたり
御揃いの武器をくれたり
素敵な武器を買ってくれたり

本当に幸せなのですけど
私が一番嬉しかったのは
・・・あの言葉でした

あなたのことが大好きで
あなたの隣にずっと居たくて
あなたと一緒に生きて行きたい
あなたが居ればへっきだから
あなたがいるからココにいるから
あなたとなら何処だって樂園になる

出会った頃から今まで
気持ちに変化はありません

私の想いを音にして。
今、届けましょう

いつもいつでも、いつまでも
あなただけを愛し続ける
あなたを癒し続けることが出来ますように
私はあなたが居ればそれだけで満たされるから
お互いそんな関係がいつまでも続きますように
大好きです、愛しています。

届け私の想音。

届け、世界で一番素敵なアサギの旦那様のギルザさんへ。

【宵月の君】

密やかに

あなたと私

二人きり

月に誘われ

今宵も出会う

【夜空に浮かぶは淡き光】

真つ暗で

ただ広く遠く

夜空は果てなく

私の真上に

強い風が吹き荒れて

遮る雲は流れ過ぎ行き

淡き優しき切なき光が

私の上から降りてくる

あまりに神々しき光ゆえ

思わず瞳閉じ

頬伝う涙に気づきながらも

拭うことなく天を仰ぐ

遠き愛し月は

愛するあなたに似ているの

夜に月が現れるように
あなたとも夜に会えるから

月が見守る

二人を見守る

会わずにいられない二人を
静寂と暗闇で包み込んで

太陽は要らない

強すぎて私たちをさらけ出すから

【思う事】：浅葱

会いたい

大好き

愛してる

傍にいたい

傍に行きたい

ずっと居たい

あなたと居たい

あなたがいい

あなたじゃなきゃ嫌

あなたが欲しい

あなたしか見えない

傍に居て

私の傍に居て

私と居て

あなたが欲しい

「理由なんて唯一つ」

どうしてあなたを好きになったのかと聞かれても

「私があなたと出会ってしまったから」

としか言いようがない

あなたに聞かれても
誰に聞かれても

そうとしか言いようがないの

あの日あの時あの場所で
私があなたと出会ったから

私はあなたに惹かれて
私はあなたを好きになって
私はあなたを愛してるの

《戦闘態勢》：浅葱

彼は私が護ります
小さくて何も出来なくても
彼の楯になることくらい
出来るはずだわ

私と彼は繋がっているの
邪魔できるものなら
やってごらんなさい
絶対に2人を繋ぐ糸は
切れることがないんだから

私を手に入れることは
あなたには出来ないの
だって少なくとも私は
あなたに惚れる理由もなければ
あなたのことタイプじゃないわ

私が愛せる男は唯一人
彼から奪いたいのなら
彼ではなくて
私に何かアクションしてみたら？
無理だと思うですけど

彼を傷つける人は
私は絶対に許さない
来るなら来なさい
いつでも相手をしてあげますです

『クリスマスの日』

早く帰ってこないかな
私ははずっと、待ち続ける
なあんにもいないから
早く帰って来てください

プレゼントは買わなくてもいいのです

あなたが帰ってきてくれて

抱きしめて口付けしてくれれば

それが最高のプレゼント

あなたからのプレゼントはあなた

私からのプレゼントは私

それが一番、なのです

12（後書き）

以上、2004年3月～11月まででした（倒）

【空にしたって色々あるよね】

好きな空

朝の冷たい空気の中で見る空

夜の静まり返った中で見る星空

日中の晴天に浮ぶ純白の雲

日が沈む直前の鮮やかな朱色の空

空にも色々色がある

表情を刻々と変えて

私の瞳に入り込むけど

一番好きな空は

あなたが隣に居て

あなたと見る空が

一番好きなの

晴れでも曇りでも雨でも

朝でも昼でも夜でも

隣にあなたが居れば世界が変わる

【欲望願望】

何かが足りない私の身体

あなたでぴたりと埋まる
何かが足りない私の心
あなたでぴたりと埋まる

もつと傍に
もつと中に
もつともつともつと

あなたを感じたいの
夜にしか二人が会えないのなら
朝日を拒んでカーテン閉めて
灯りを消してシーツを被って
二人でいたい

【人】

手をつなごう
いつも
いつでも
ずっと

寄り添おう
いつも
いつでも
ずっと

隣に誰かがいる幸せ
隣に特別な誰かがいる幸せ

大事なものはたくさんで

大事な人もたくさんいる

けれど

今の私の一番大事な人は
もちろん、あなた

手をつないでね
隣にいてね

大好きだよ

《一年前のVD》

出会って暫くして
あなたが気になっていたので
この機に、と

選んだチョコレートを手にして
あなたのおうちへ足を運んだ

表向きはお礼

ホントは・・・好き、の気持ちを込めて

あなたは自宅に飾っていてくれました
憶えてますかー？
今そんなあなたと

同じお城で一緒に暮らしてます
幸せなですよ

【ギルザ色の空】

空を見上げた
大きく輝く星が一つ
空は綺麗な深藍色
あなたの瞳と髪のように
会いたくて会いたくて
抱きしめてもらいたくて
ちょこつと、泣きたくなりました

《囚》

思い出すのはあなたの声
思い出したのはあなたの温もり
瞳の輝き
声の重み

これだけで私は多分
思い出して自分を抱きしめた

あなたに堕ちる
あなたに囚われる
あなたに留まる

あなたが

《罨Ⅱ誘惑の方程式》

あなたの部屋

あなたの声
あなたの体温

余裕のある声が
余裕のある態度が
全てが悔しいけれど
私はそれが好きらしいです

どうにもならないけれど
私はそれでちょうどイイ
あなたに溺れすぎない程度に
あなたの隣にいたいのです

そしてあなたは知っている
私に罖を貼ったあなたは
上手く私を手に入れたから

・・・どうぞ、お好きなように

【居場所】

数年前の冬
あなたを見つけた

あなたを見つけて
居場所を見つけた

ココが私の場所
あなたの隣が
私の場所

いつも気にかけてくれてありがとう
いつも傍に居てくれてありがとう
いつも大好きでいさせてくれてありがとう

大好きですよ

《私の役割》

私のダイスキなあの人は
とても強くてかっこよくて頼もしくて
いつもいつも私を護ってくださいます

私を護ってあの人が傷ついてしまわないように
私も全力であの人のお傍にいます

回復の呪文と防御の呪文と攻撃補助の呪文を
何時でもあの人にかけてあげられるように

でも、護って貰うだけじゃなくて
ちゃんと私も隣で戦いますから
どうか旅に出掛ける時は
私を置いていかないでくださいね

2人で一緒にいるからこそ
2人の力が最大限に発揮されますよう

【契約のコトバ】

契約を

キミと私の契約を

それは世界を超えて繋がる『契約』

あの日あの時キミと出会い

私はキミに頼り、キミは私を救ってくれた

あの日の自分のキミへの直感は、間違いではなかったと
キミは言わば私の守護神

そして契約を

藍と緑の契約をココに

私はキミの傍に居る

キミが辛く負けそうな時には必ず声をかけて
せめてもの恩返しを

キミに契約のコトバを

「私はキミが大事なの」

藍と緑の契約を。

『はにかみ笑顔に込める想い』

あなたに、微笑むのです

あなたの言葉が嬉しくて

自然と顔が綻んでしまうのです

軽く赤面、照れ笑い

あなたの目には、どう映ってますか

あなたへ気持ちを贈るのです
あなたへ想いを届けるのです

好きを、大好きを、愛しているを
あなたにいつも、贈りたいのです

そして私は今日も微笑む
愛しい愛しいあなたの為に

「おかえりなさい」

『日常の一幕』

こつん・・・。

あなたの額に私の額を軽くぶつけて
私は微笑んだままあなたに寄り添う
日常の一幕

「幸せそうだね」

「そうですよー」

「嬉しいの？」

「もちろんなのです」

そんな会話を繰り返す
あなたの隣で、繰り返し替える

『専属めいど』

「おかえりなさいですよー」

扉の向こうから、あなたが顔を出す
にっこり笑ってお出迎え
今日も一日、お疲れ様でした

あなたのために、ご飯作ったの
あなたのために、お風呂沸かしたの

一応妻なんだけど・・・
気分は専属めいどさん。

『目の前のあなたに、涙』

嬉しくて嬉しくて
心がいっぱいになって、どうにも出来なくて
ほろり、ぽろぽろ・・・
涙が零れ落ちる

大好き大好き、ありがとう
あなたに会えてよかった
あなたと居られてよかった

あなたはそつと、涙を拭ってくれました

『ふたりぼっち』

静かな寝息、あなたの寝顔
隣で見つめているだけで
心がじんわりあったかくなるの
冷たいシーツに包まって、二人で眠る

二人の体温が暖かくて、くすぐりたい

やっぱり二人は良いですね
私は笑って頬に口付けた

【虜】

あんまり見ないで欲しい　どきどきするから
あんまり構わないで欲しい　心が離れられなくなるから
嘘。

ホントはもっと、見て欲しい
ホントはもっと、構って欲しい

いつからあなたにこんなにも囚われていたんだろう
体中あなたの鎖に絡められて動けないけれど
私は多分、それが好き

『やっぱり最強で最凶の人』

「7日が晴れで、天の川が見えてたら、きっと電話できてたんだよ、
きつと」

君からメールが届いた
思わず私は口元を緩ませる
張り詰めていた糸が不意にゆるくなった
笑顔が戻る

君のそんな優しさが、気遣いが好きですよー
君からのそんなメールで私がどれだけ救われたか
君はきつと知らないと思う

でも、七夕に君と電話してしまっただけ……。

それは、それで、なんだか少し、怖いような気がするのは。
君がやっぱり最強で最凶の人だから

凶悪なくらい私の喜ぶことを見抜いてしまっただけ、君だから
ホントに、ホントに嬉しかったよ、ありがとう

【手、が好き】

あなたの手が好き
大きくて安心できるから

手を繋いで歩いて
手を繋いで眠って
手で頭を撫でて貰って
手で私を繋ぎとめてね

私は隣で微笑んだまま
ずっとずっとその手を離さないから

『はっぴーばーすですが、君から』

今年の誕生日に最初に届いたおめでとうメールは
長年連れ添った親友からではなくて
君から、でした

私は驚いて、嬉しくて、思わず君からの着メロに
「ええ!？」

と声を上げてしまったわけで
慌てて開いてメールを見たのです

君からのメール

とてもとてもあったかくて
すごくすごく嬉しくなって

慌てて返事をしたけれど

慌てすぎて一文抜けていました

私もこれからも大好きです

私から君に愛を込めて

『たまに』

あなたの隣にいと

心がじんわりあったかくなる

近くで見るのも好きだけど

遠くで見るのもなんか嬉しい

たまにでいい

たまにでいいから

こつち向いて微笑んでね

そしたら私はもっともっと頑張れるから

でも、あなたはちゃんといつも、見ててくれるのでした

【繋いだ手の意味】

二人で手を繋いでにっこり微笑む

それだけで何かチカラが沸いてくる

これからもずっといつまでも手を繋いでいようね
決してこの手は離さない

私にとってあなたは全てで

私からあなたを取ったら後にはなんにも残らないのです

『漏れた言葉の意味』

会いたい、と唇から言葉が漏れた

啞然、と空を見上げる

会いたい、君に

何故こう思ったのかは分からないけれど

想いを音にしてしまった程に会いたかったのだろうか

確かに君に会えば元氣も出るだろう

かといって、別に今元氣がないわけでもない

何故

何故、私は、君に

会いたいと思ってしまったのだろう

何故

何故、私はこうも切なく

「会いたい」と呟いてしまったのだろうか

『あなたの隣で眠るから』

無理しなくていいよ？

嬉しいけれど

頑張らなくていいよ？

幸せだけれど

優しいあなたは時間を割いて私のところへ来てくれた
嬉しくて幸せだけれど

あなたの隣で私は眠って

あなたをずっと、見つめているから

あなたを必ず、護り続けるから

たまには大人しく癒されててね？

愛しい愛しい旦那様

『ゆっくり寝てね』：浅葱

「おやすみ　だって大好きやもん」

眠る前に君からのメール

寝ぼけた瞳で見たケータイ

全くホントに君は・・・

相変わらず私のツボについてくるよね

日中の日差しで温まったお布団に寝転がる

先ほどまで暑かったのに

今は

なんだかその暖かさが君が居るような感じで

思わず錯覚してしまう

おやすみ、愛しの君

【君の好きなところ】

『好きー（ハートマーク連打）』

と、君にメールした

唐突に、なんの前触れも無く
君を想って好きだと言いたくなったから

「どした？」

ってメールが来るだろうな、と思っていた
君からメールが届く

『大好きー（更にハートマーク連打）』

私はこう切替す

『超好きー（更に更にハートマーク連打）』

私の君の好きなところ

こつという突然の私の想いに
すぐさま対応してくれるところかもしれない
好きだから、好き

そう呟いて笑った今日の昼時

【願い事】

声を聞いて 振り返って
視線が交差して 言葉を交わしたその日から

恋に落ちて 歩み寄って
傍に居ようと 護ろうと
あなたの支えになりたいと
ずっとずっと傍に居ると
そう思っ生きてきたけれど

結局のトコロ。

護られているのも支えられているのも
私のほうなんだと思ってしまう

願うのはあなたも同じ気持ちで居てくれれば、ということ

あなたがいるから、私でいられる
私がいるから、あなたでいられる

そんな二人で変わらず居たいと、そう思うのです
愛しい愛しいあなたへ。

【ここが、好き】

あなたの凄いところって
私が渡すあなたへのやたら巨大な想いを
ちゃんと受け取ってくれるところ

だから私は安心して

あなたに大きな大きな想いを
今日もあなたに届けるのです

徐々に大きくなっていくこの想いは
あなた以外に受け止められないのです

だから、とても、あなたが、大好き
いつも受け止めてくれて、ありがとう

13 (後書き)

2007～2008年作品

【愛しあなたへ贈る歌】

深くて濃い霧の中
 ゆっくりと進む船の上
 肌寒い空気が心地良く
 まだ見ぬ土地へと旅立つ時

好きな色は深藍色
 暗き闇より気高くて
 静寂なる神秘的な夜空に似た
 あなたの色

眩い銀の光が船を照らす
 深夜の帳、麗しの月光
 大きな星に導かれて

ただあなたへと船は進む
 愛しいあなたの為だけに

【いつしょ。】

広くて大きなお城の中に
 あなたと2人きり
 広すぎて何をしていたのかわからないし
 広すぎてあなたと離れてしまいそうで怖いから
 ずっとくっついて歩いていいですか？

【かけがえのない最大のもの】

あなたがくれたものは愛しくて大切に

たくさん言葉と

私の色の指輪と

どれもこれもかけがえのない大事なものだけど

それよりもかけがえのないものがあるのです

言葉より指輪より何よりも

かけがえのないものはあなた自身

私色の指輪を選ぶあなたと

それを渡してくれた時に告げてくれた言葉と

・・・ありがとう

かけがえのない、あなた

【夢の続き】

眠るときは「おいで」と手を差し伸べて

2人ぎゅつとしたまま、朝を迎える

決して離れることはなく

目が覚めたら、あなたの寝顔

私はこっそり起きてコーヒーを煎れる

やがて起きたあなたの隣にぴつとりくつついて

一緒にコーヒーを飲むのです

「おはよう」

「おやすみ」

「おかえり」

「ただいま」

「愛してる」

【限界】

自分にどれだけの力があるのかなんて知らないけれど

あなたの為になら限界まで頑張るのです

あなたを護る盾になり

あなたと戦う剣になり

無事を願って王子様の帰りを待つお姫様では嫌なので

私は何時でも愛する人の隣に居たい

共に死ねるという素敵な可能性があるのです

愛する人が居る限り

限界を超えて無茶をして

辛くても苦しくても無理だと嘆いても

それでも頑張る勇気が溢れ出す

限界は、ないのです

《楽園の定義》

あなたはいつも言うけれど

「少しでも君が幸せであれば」

そう微笑んで言うけれど

たくさんの素敵な贈り物
抱え切れなくて右往左往
どれもこれも大切に
目の届くところに飾りたい

でもね、でもね

何よりも大事なものは

私の隣にいてくれるあなたで

あなたがいれぱずつと幸せで

例えばそこが死の世界でも

例えばここが砂漠でも

例えば次の場所が永久凍土でも

あなたがいれぱどんな場所だつて楽園で
私は幸せなんですよ

《ぎゅ》

ぎゅってしてくれるから

いつもいつも名前を呼べば来てくれて

ぎゅってぎゅってしてくれるから

起きてても寝てても

ずつとずつとぎゅつとしてくれるから

私はあなたの匂いに包まれて

安心していられるの

もつとぎゅつとしててね

身体の何処かがあなたに触れていないと

不安で不安で仕方がないの

もつともつとぎゅつとしてね

私が壊れてもいいから
ぎゅっと、しててね

《愛しの光の聖騎士様の事。》

姿は変わっても

魂は同じで

あなたは私を探してくれていました

まさか再会できるなんて思わなかったから
私は嬉しくて嬉しくて

背伸びしてあなたの綺麗な銀髪に触れ
あなたの胸に顔を埋めているけれど

まさか、魔族になる前のあなたが
戻ってくるなんてこれもまた夢のようで

銀のあなたも好きですが
やっぱり私が好きなあなたは

出会った時の姿の
深藍色のあなたです

おかえりなさい、愛しい人。

【・・・】

遠く離れていても
先が見えなくても
あなたがいるから進んでいける

闇に押しつぶされても
霧に覆われてしまっても

あなたの光を見つけ出して歩き出せる

間違いなんてこの世にない

間違いだと思わなければ間違いにならない

あなたの私の二人のことに

間違いなんてあるはずがない

大好きだから

一つだけ大事なものは、と聞かれたら
迷わずに「あなた」と答えられるほど
私はあなたを探して求めて来たんだね

見つけたあなたをこの手から離さない
見つけたあなたはこの手から離れない

大好きだから

【ココ。】

ずっと、いつしよ

あなたと、いつしよ

いつしよじゃなきゃ、嫌

あなたがいいの

あなたでなくちゃ駄目なの

私の恋人はあなたしかいないの

連れてって遠くまで
連れてって何処までも

遠い国を見つめながら

ここから夢を見る

あなたとまた同じ国で働く夢を

【あなた。】

あなたを見てる

あなただけを見てる

あなたしか見えない

あなたしか見たくない

あなたは強くて

あなたは無謀で

あなたは真っ直ぐで

あなたは過ちを恐れないから

私は隣で

あなたを信じて祈る

二人で進むの

二人の道を

負けない

挫けない

泣かない

逃げない

私の想いはあなたの為に
私の声はあなたに伝える為に
私の目はあなたを映す為に
私の身体はあなたを受け入れる為に
二人で進みましょう
眩しいあなたを見つめながら

【近】

あなたの声が聞けるのなら
あなたに触れていいのなら
あなたを見ていていいのなら
あなたに口付けていいのなら
あなたを抱きしめていいのなら

遠慮なくそうさせていただきますです
だってね

好きだから。

【おやすみなさい。】

君におやすみなさい
今日も笑わせてくれてありがとう
いっぱいいっぱいお話出来て
いっぱいいっぱい声が聞けたから
元気が出ました、ありがとう

君に感謝なんてしてもしても足りないけれど
ホントいつも、ありがとね

大好きな君へ、おやすみなさい
また明日もよろしくね

【願い事】

声を聞いて 振り返って
視線が交差して 言葉を交わしたその日から

恋に落ちて 歩み寄って
傍に居ようと 護ろうと
あなたの支えになりたいと
ずっとずっと傍に居ると
そう思っ生きてきたけれど

結局のトコロ。

護られているのも支えられているのも
私のほうなんだと思ってしまう

願うのはあなたも同じ気持ちで居てくれれば、ということ

あなたがいるから、私でいられる
私がいるから、あなたでいられる

そんな二人で変わらず居たいと、そう思うのです
愛しい愛しいあなたへ。

14 (後書き)

2004年作品です。

【笑顔の素】

あなたが隣に居るだけで
私はとっても元気です
何でも出来る、気がします
嬉しくていつも、笑顔です

あなたはいつも一緒に居てくれるけど
やっぱりこうして何処でも一緒に居られると
私は嬉しくて楽しくて心が躍ってしまうのです

大好きな、大好きな、あなたへ。
私は今日も、元気です。
ずっと、一緒に、ありがとう。

【あなたが隣にいないので】

我慢をするのです
我慢していれば、時間が経てば
願った幸せが手に入るのです
あと少し、あと少し
頑張ってきた今までは短いものです

普通よりも幸せなのです
恵まれているのです
だから我慢するのです

我慢できるはずなのです

ご飯を食べてる隣にあなたが居ない
お風呂を入ってもあなたが居ない
お布団はいつまでも冷たくて
あなたがいない、あなたが、いない

あなたが隣に居ないので
調子が全く出ないので
でも、我慢するのです
二人の為に、未来の為に
願った未来を手に入れる為
ちゃんと私は大人しく
あなたを信じて待ち続ける

あなたが隣にずっと居る日を待ち続ける
・・・でもやっぱり、寂しいや。

15 (後書き)

2004 /

【望むのは君からの絶対的な愛】

二人きりの世界

何もないただっ広い空間に

二人きり

君が居れば他に何も要らないんだ
それが僕の最大の望み

ねえ君はそう思ってくれないの？

二人だけで十分だろ？

他に何を望むの？

僕は二人きりの世界を望む

君を愛しているからそれを望む

君は二人きりの世界を望まないの？

じゃあ、君は僕を愛していないの？

君も僕と同じように

二人きりの世界を望んでよ

僕がまた過ちを犯す前に

僕がまた君を殺す前に

君の絶対的な愛を僕に見せてよ

・・・未来へ、望みを託さなくてもいい様に

2008/01/03
(uTh)

【僕の小鳥】

緑色した小鳥を手に入れた
可愛くて愛しくて籠に閉じ込めた
綺麗な声で僕の為に鳴き続ける
僕の大好きな小鳥

籠の中で羽ばたく小鳥を
僕は見ていて不安になる
どうかどうか僕の前から消えないで
籠から出したら小鳥は飛んでいなくなる

僕を置いていかないで
僕の前から逃げないで
不安は日々募って募って
僕は焦燥感に駆られてた

飛び立って居なくなる前に
小鳥の羽を切り落とす
羽根がなくなれば小鳥は消えない
僕の前から消えないから
僕はようやく安心して小鳥を見続けた

小鳥は羽を切られて
そのまま暫くして籠の中で息絶えた
僕の愛する小鳥

死んでから気がついたよ
小鳥は僕から逃げなかったことに

小鳥はずっと傍に居続けたことに
小鳥は

【僕の小鳥】（後書き）

2007/12/20（Thu）

「あつたかお布団、早くちょーだい」

『先にちゃんと寝てるんだぞ』

と、あなたにメールで言われても。

一人ぼっちのお布団は冷たくて寂しいので

『待たなくてもいいから、寝てるんだ。ちゃんと後で行くからな』

と、あなたにメールで言われても

いつも一緒に寝てるから寂しくて寂しくて
冷たいお布団は嫌いなので

こーして待っているのです。

やっぱり二人一緒に眠りたい

あつたかお布団でぬくぬく。

早く、帰ってきてね。

【癒】

仕事で疲れて帰宅したあなたが

真っ直ぐに私のところへ飛んできて、ぎゅー。

一言。

「落ち着くなあ」

一緒にご飯を食べながら、お話して笑っていると

あなたが不意に私を真っ直ぐ見つめて言うの

「・・・疲れてても、会えると疲れが消えるんだよな」

これって、何だ？

そう小さく呟くあなたに、私は笑うのだ。

さあ、何だろう？

何だろうね、何でだろうね？

私はとっても、嬉しいのです。

ようやく私にも出来たよ、大事な人を癒す、ということ。

癒

仕事で疲れて帰宅したあなたが
真っ直ぐに私のところへ飛んできて、ぎゅー。

一言。

「落ち着くなあ」

一緒にご飯を食べながら、お話して笑っていると
あなたが不意に私を真っ直ぐ見つめて言うの

「・・・疲れてても、会えると疲れが消えるんだよな」

これって、何だ？

そう小さく呟くあなたに、私は笑うのだ。

さあ、何だろう？

何だろうね、何でだろうね？

私はとっても、嬉しいのです。

ようやく私にも出来たよ、大事な人を癒す、ということ。

2007 / 12 / 12 (Wed)

君に伝えたいこと

あと少しで、願いが叶うみたいです

君に伝えた私の願いが、ちよこつと違うけど、叶うみたいです

君は私に

「本当に優しいんですね」

と言ったから、私は

「優しいんじゃないよ」

とそう切り替えたのを覚えています

そう、優しいわけじゃない

もしかしたら自分が悪者になりたくないだけかもしれない

私の最大に我侭な願いが、どうか、どうか

一番最善で叶いますように

見てて、大事なお友達

そしたら一番に報告するよ

2007/12/12 (Wed)

【殻の中の・・・】

声を出すのは勇気がいる

言ったら壊れそうなので、怖いから

言ったら何かが変わるから、言えない

でも、言えば思い描く未来へ進むことが出来るかもしれないから
だから、言いたい

想う事は勇気がいる

嫌われたらどうしよう、邪魔だったらどうしよう

避けられたらどうしよう、上手くいかなかったらどうしよう

想っても仕方ないのかも、なんて考えて怖くなる

でも、想って想って想ったら、変わるかもしれない

だから、想い続ける

手を伸ばして、想いを伝えたいのなら

少し、少し、自分の固い殻を内側から削っていくの

一度に壊さなくて良いのです

最初は指で押してみて

徐々に力を入れていって

君の力で出ておいで

2007 / 12 / 10 (Mon)

【無力】

なんとかしたいと思ったんだ
でも、無理だった

自分に出来ることを考えたんだ
無理だったんだね

なんとか君に近づきたくて
必死で傍にしようとしたけれど
とても大切なものが多分欠けていたから
多分ダメなんだ

その場所に私が居ないほうが良いのではないかと
最近ずっとそう思っていて
どうしようかと、悩んでいるところ

結局君に、私は
何も出来なかったし、何の役にも立てなくて
無力で仕方がないけれど、それが現実なのだと思って

今、散歩中。
色んなところをぐるぐると。

2007/11/24 (Sat)

【Dear My Friend】K】

君は

一見しっかりしているようで、実は危なっかしくて
見ていてとても心配です

君が

とても優しい子で人に気を使える子だというのはわかるけど
その為に自分が蔑ろになっっているのが心配です

君を

大事にして護りたいと思っている人はたくさんいるけれど
君自身が自分自身を大事にしていけないので辛いです

君は私に問いかけました

『好きになるってどういうことですか』

あのね。

私は可愛いものが好きだ、だから集める。

私は美味しいものが好きだ、だから色々食べる。

私は仲の良い友達が好きだ、だから関わって接していく。

私は彼氏が好きだ、だから一緒に過ごしている。

多分君は『好き』って分かっているんだよね。

友達を大事にして、友達の為に泣ける子だものね。

そして可愛いものとか好きだものね。

ちゃんと、『好き』って分かっているんだよね。

君が分からないのは『恋愛感情の好き』・・・なのかな？
これもきつと君は分かっていると思うんだよ。

ただ。

好きってホントに曖昧な感情だから。

自分が相手に対する好き、と、相手が自分に対する好きの温度差が違ってしまうんだよね。

私はね、産まれて来た意味って、本当に心から愛し合える人と出会ってその人と共に死が迎えに来るまで過ごすことだと思うのです。そう思っているのです。

つまりは、幸せになりたい。

幸せになるためにも、別に恋人なんて探さなくてもいいのかもしれない。

大事な友達が居ればそれで良いのかも知れない。けれど、私の中では『幸せ』好きな人と一生一緒にいること』、なのです。

好き。

心がきゅーん、ってする。

その人の傍に居たくなる。

その人に何かしてあげたくなる。

その人に好かれてみたくなる。

その人とずっと一緒に居たくなる。

その人に、自分を分かってもらいたくなる。

その人のことを分かりたくなる。

その人の苦しさを取り除きたくなる。

その人に自分を救って欲しくなる。

その人と何も隠さない状態で居たくなる。

その人と、共に一緒に居たくなる。

その人を愛して、愛されたくなる。

自分の苦しみて、他人には分からないことのほうが多いのです。

自分が言つた何気ない一言が、相手を傷つけることがあるように。
人の苦しみて人それぞれなので。

でも、私、ホントに信賴して大事な人ならそれを分かると思ふし、
分かりたいと思う。

君は「みんなに幸せであつて欲しい」と言つたけれど。

その後「自分はいいいから、他の全ての人達が幸せであればいい」
と言つたけれど。

君が幸せにならなきゃ、君に関わる全ての人が完全に幸せなわけじ
やないんだよ。

とても心配なんだもの、なんとかしたいもの。

私は君の喜ぶ顔が見たい。

君が嬉しそうにするとところが見たい。

それで少しでも心が軽くなってくれば。

少しずつ、少しずつ、楽になってくれれば。

君を完全に『幸せ』に出来るのは私じゃないと思ふけれど、私はそ
のお手伝いがしたいのだ。

一つ、一つ、今君を取り巻く苦しみの問題を消し去つて。

周りのみんなと消し去つていつて。

そして心から笑える日が来ることを願っているよ。

そのために私が出ることに、小さなことだけど気休めかもしれない
けど、色々思いつくんだ。

だつて私は君が好きだもの。

私の想いを音にして。

今、君に届けるからね

君が幸せで居られる為に、文句でも悩みでも愚痴でも私に言いなさい。

君が幸せになる為に、自分の心と身体が悲鳴を上げそうになったら休みなさい。

君の一番したいことを。

君の一番やりたいことを。

深く考え込まないで、たまにはぼけーっとして動いてみよう。

君の周りに居るたくさんのお友達を、君が「大事な人」と思っているのなら。

まず、自分自身を大事にしてね。

約束です。

届け私の想音。

届け、私の大事なお友達へ。

どうか君が心から笑える日が来るように。

どうか君がとても大好きな人と一緒に居られる日が来るように。

Dear My Friend 『K』 (後書き)

2007/11/18 (Sun)

運命の赤い糸の話

出会った瞬間に、運命の人、って分かるのかな
あなたがそうだといいな

「あなたが運命の人だといいな」

私はそう言うけど、あなたはこう言うのだ

「運命とかは信じない。歳をとって死ぬ間際に『ああ、こいつが一緒でよかったな』って思える人と結婚していたらソイツがオレの運命の人で。それまで分からないと思うんだけど」

私は少し、残念だった。
でも。

あなたは言うんだ。

「相手がお前だったらいいな、とは思ってるよ」

お互いが運命の相手かは分からないけれど
そうでありたいとお互いに信じているから
・・・これってやっぱり運命の赤い糸で結ばれているのだと私は思うよ

2007/11/16 (Fri)

星を、買う

雑誌を見ながら、あなたが言った

見ていた先は”星に名前をつけられる”権利が買えるページ

「凄いな、これ！」

興奮気味に雑誌を見つめるあなたの隣

私は軽く笑っていた

「二人が籍を入れた日に、お互いの名前の星を買おうか」

「後、子供が産まれたら、一人ずつ星を買って子供の名前をつけてな！」

私とあなたの名前の星

子供達の名前の星

素敵な素敵な物語。

夢は、見るのではなくて、叶えよう。

2007/11/09 (Fri)

でも、高いんですよえ、コレ！！！！（現実的）

【思いを歌う】

あなたがここに居ないので

ここに居る私は私ではないような気がして

一緒に居て、一緒に眠って

ほとんど同じ時を過ごしているけれど

肝心の日中の行動先が違うのです

あなたがここに、いない

私は真新しい城壁から遠い酒場を見つめて

そこにいるあなたの隣に居たいのだと

そう思っただけで軽く笑った

あなたの隣に、あなたと共に

あなただけが私の存在意義

2007 / 11 / 22 (Thu)

某ネットゲで書いた詩なので、意味が分からないかもしれませんが。

羨

女は小説を閉じた

何度これを読んだらう

そのたびに、女は思っていた

「主人公が、羨ましい」

そう思っていた

思っではいけないことだろうが、何年経っても羨ましい

本を閉じて棚にしまう

ねえ。

だって、主人公は。

とても、とても、幸せだった。

ねえ。

私は。

彼女を超える幸せを手に入れられる？

最近、とても自信がない。

なんだろう

2007/11/09 (Fri)

……そうですね、羨ましいと思います。

今でも。

けれど、昔よりはそう思わなくなりました。

……多分。

何か一つ

気が付いたら隣にあなたがいました
あなたが私を見つめていてくれる

それだけで私は幸せでした

何も恐れることもなく

ただただ幸福な日々が続いていました

進むのに勇気を与えてくれて

立ち止まったら背中を押してくれる

泣きそうになったら抱きしめて

そして私は貴方の為だけに笑う

そんなあなただから私は

「何か一つだけ選べ」

と誰かに言われたら、迷わずに

あなたを選ぶんです。

ずっとあなたを探し続け

ずっとあなたを待ち続け

ずっとあなたを求め続け

ずっとあなたを欲する

どうかお願い私の隣から消えないで下さいね

7年前、ですか。
うん、消えてませんね。

理想の女の子

過去からの因縁

未来への伝言

好きな人に嫌われないように傍に居たい

好きな人の邪魔にならないように祈り続けたい

特別な力なんていらなくて普通でありたい

好きな人の役に立ちたい

ちよっと思考が変わったみたいです

もし、好きな人が自分のことを好きだと言ってくれたなら

それはとても胸をはってもいいことで

そんな自分を嫌いだと言っては好きな人に失礼なので

自分のことを大事にして

自分のことを好きになって

自分が少しでも可愛くなれるように言い聞かせる

自分に魔法をかける

理想の女の子は

自分のことが好きだ、と言える女の子

2004・5

君の声が聴こえた

今日、君の夢を見た

びつくりして起きて、君にメッセージを残してみた
君は、どう思っただろう

誕生日にメールをくれなかったのに
今頃何を・・・って思ってる？

それともただの”友達”だから
笑って聞き流してくれた？

夢の中で君とコンビニに居ました

「何を買う？」

って聴かれたので、私は首を横に振った

手を繋いで、車に乗った

君は私の隣で眠ってた

私は、君が今でもとっても大事です

ただ、君に逃げたくなくて依存したくなくて
一生懸命距離を置いています

でも、時々君に頼りたくなったりもします

昔、君は私に言いました

「好きなら好きで良いと思う、オレは好きだよ」

でも、私が好きだと返したら、それは

君が好きな私でも、君を好きな私でも、あの人を好きな私でも

・
・
・
なくなってしまうんじゃないかな
・
・
・

.....

私が貫き通したかったものが、音もなく崩れ去ったと思う
今までの私はなんだったんだろうと、思ってしまった
全く届いていなかった
それがとても悔しくて、泣いた

恋人同士って、信じあうものだと思うのだけど
信じるものだと思うのだけど
自分で勝手に決め付けてしまうのはどうなんだろう

少しくらいは、見守って欲しい
少しくらいは、思い直して欲しい
少しくらいは、信じて欲しい
少しくらいは、我慢して欲しい

私の中で、音もなく壊れたものがあるのよ
あなたは気が付かないだろうけれど

2007/10/08 (Mon)

香

瞳に姿を入れなければいいのに 苦しむくらいなら
忘れてしまえばいいのに 悩むくらいなら

何故 探してしまう？

何故 足を止めてしまう？

何故 胸が痛くなる？

何故 声をかけようとする？

それは多分君の香りが

まだ私の身体と心に

残ったままで消えていないから

君の香りを捜して姿を求めて歩く

君を見つけて言葉を求めた

香りだけでは物足りない

そんな我儘な日

君は今日もそこに居ます

言葉が欲しいです 昨日みたいに

2007/09/08 (Sat) 少し改造しました。

緑は見守る

周りの景色はモノクロで
見えているのかいないのか
そんな何も分らない世界

一人そこに立ち尽くし
泣きそうな顔で何かを探す

見ていてあまりに苦しくて
どうしてよいのかわからなくて
遠くのほうで立ち尽くした

彼女の世界に色彩を
彼女の世界に花の香りを
彼女の表情が戻るようにと

願い続ける、ただひたすらに

私はここにいるよ
ちゃんと見ているよ
だから 頑張つて

2007/09/08 (Sat)

誰宛に書いた詩なのか、すぐ思い出したのですが……。

力を、頂戴

むかし、むかし、緑の髪の娘とピンクの髪の女の子が出会った場所
に

緑の髪の娘が戻ってきて、願いを言いました

彼女に、力を

ほんの少し、勇気を

ほんの少し、夢見ることを

ほんの少し、前を見ることを

ほんの少し、考えてみることを

ほんの少し、諦めないことを

ほんの少し、「恋の楽しさ」を思い出すことを

どうかどうか、あの時のように。

私に一人の女の子を勇気付けられる力をください
どうかどうか、大事な女の子が傷つかないように
護りきる力をください

願わくば彼女の未来が、明るいものでありますように
私は願う事しか出来ないけれど、応援しているよ
昔あなたが私にそうしてくれたように

2007/09/06 (Thu)

元気ですか、私は元気です。

あなたは私の好きなあの人のようになれましたか？
でも、あなたはもっと違う様に誰かを愛せるはずですよ。

一番最初のプレゼント

あなたが一番最初にくれたもの。

私の好きなブランドの、大きめボストンバッグ
可愛くて使いやすいから、ヘビロテヘビロテ

・・・当然、数年経てば古くなった
内ポケットに穴が開いて

あなたの車の鍵がポケットの内側に、ころん

「いい加減捨てろよコレ、汚れてきたし」

って、いうけれど。

あなたが一番最初にくれた物

大事な大事な、私のバッグ

捨てられるわけがないから、とりあえず
ポケットを縫っておこう

これからも使い続ける為に。

大事な大事な、私のバッグ
捨てるなんて、出来ません

久々に。

足りない、解ってるけど。

「オマエが好きだ」

と言われて。

傍に居てくれても。

解っていても。

解っているけど。

足りない、足りない。

もっと欲しい。

言葉も欲しい。

態度も欲しい。

もっと好きって言うて。

もっと笑って。

もっと頭撫でて。

もっと手を繋いで。

もっと抱き締めて。

もっとキスして。

好きだと解っていても。

傍に居てくれても。

足りない、足りない、まだ、足りない。

2009-9-24

今もそう思っています。

女の子は、我が儘なのです。

わかっているんですけどね、
なんでしょうね、不思議です（笑）。

星を、探して

地上に雨が降るならば

天の川も増水して

織姫と彦星は会えないの？

あなたと二人、雨が上がり

雲の切れ間から微妙に覗く月の光を

部屋の窓から見つめてた

「星を探しに行こうか」

あなたが言うので、私は静かに頷いた

ああ、あなたは覚えててくれた

私がクリスマスよりも七夕が好きだと言う事を

私は、思っています

きっと天の川には、増水しても負けない橋が
かかっていると思うのです

ので。

会えているのです、天上の恋人達も。

2009.7.9

時期外れ（笑）

『らいらいら。』

今日のお昼は、ラーメンを

あなたがよく行くラーメン屋さん

一品料理の数も豊富で、安いからと

常連ラーメン屋さん

一度、あなたと会社の人と食べた事がある

二、三度酔ったあなたを迎えに行った事がある

車を停めて、お店に入る瞬間にあなた、一言

「・・・こういう小汚い店はさ、おまえに似合わないんだよ。

もつとお洒落な綺麗な店に居て欲しいんだけど、本当にここでのいの？」

らいらいら。

あなたは、未だに、私の事を、解っていない。

小汚いお店のほうが、独特の味が出てて美味しいお店が多いのよ？

そして何より、私は。

綺麗で可愛いお店は好き、でもね。

”あなたが重要なんだ”

・・・らいらいら。

2009/06/02 00:21

日課というか、決まりごと

いつだったか、あなたが決まりごとを作りました。

「毎日最低キス50回」

毎日毎日カウントしてるのは私なのだけど。

多分、数えて無くても数えてても、50回はしているような気がするので。

・・・カウントしなくても良い気がします。

だって。

お風呂の中だけで毎日50回はキスしてるから。

日課というか、決まりごと。

毎日キス、80回くらい。

あなたが決めた、決まりごと。
これからも続く、決まりごと。

2009/02/21

最近はこんなにしてませんね・・・。
↑駄目じゃないか！

お迎え、二時間十四分

試験を受けに行くあなた、遠いトコまで一人で電車でガタゴト。きつと、寂しいだろうから。

私、水曜日半日お休みなので迎えに行こうと思ったのです。

ナビもあるし、きつと大丈夫。

その近くに雑誌に載っていたおいしそうなパン屋さんがあるので、そこでうろうろ。

「迎えに行くから、頑張るんだよ」

行った事ない場所だけど、きつと辿り着けるから。

あなたは変な声を出して、物凄くびっくりしていたので私のほうが驚いた。

照れながら抱き上げて、何を言うのかと思ったら。

「物凄く嬉しい場合はどうしよう」

嬉しかったなら、それはよかった。

私も、嬉しい。

頑張って、行くから待っててね。

そしてあなたは一人で調べてくれた。

帰りに夜景が綺麗な場所に寄ってくれるのだそうだ。

ご飯も、美味しい場所を探してくれたのだそうだ。

平日、遠くでデート、とても、素敵。

あなたの愛車は、今週はお休みなのですよ。

2009/02/20

冗談抜きでよく無事にあそこまで一人で運転できたな、私（方向音痴）。

いや、ナビはあるんですけどね。

だから、欲しいもの

「欲しい物が買ってやれないなんて、オレは嫌だ。お前に苦勞とか
かけたくない」

と、意味不明な事をあなたが言うので。

苦勞なんてずっと前からかけられてるし

それでもいいから居るのだし

好きな服やバッグとか買って着ている私を好きだと言ってくれるの
は嬉しいのだけど

あなた、私が一番欲しいもの解ってないの？

と、みかん食べつつ転がった。

私の笑顔を見たいんだ、と言うのなら。

もっと簡単な方法があるのに、まだ解らない？

あなたは数分後、帰ってきてドアを開けていきなり

「さっきのなし！」

と、叫んで抱き上げてくれました。

私の欲しいものの、思い出してもらえたのならよかったです。

新しい服も、バッグも、ピアスもないので、我慢するので。
ちゃんと、傍に居てください。

栄華の烈雷Final

君を見守る空になろう

君が凍えないように陽で照らす

君が泣いていたら一緒に泣いて雨を降らす

君が落ち込んでいたら俺も翳って曇るだろう

君を傷つける奴は雷落としてあげる

君が寂しいときに見上げたら空がある

ずっと太陽は出ていないかもしれないけれど

俺は必ず君の近くに居るよ

煌く星から、優しさを

眩しい太陽から、明るさを

美しい純白の雲から、笑顔を

君に、君に、届けよう

俺から愛する君へ、届けよう

<http://ncode.syosetu.com/n1747u/>

関連小説

幸せの定義

『幸せを感じる時って、どんな時？』

あなたがそう聞くから

「一緒に隣でお話しながら手を繋いでくっついて眠りにつく時」
って、答えた

幸せなんて、たくさんある

大小あるけど、たくさんある

美味しいもの食べている時

可愛い服が買えた時

友達と長話している時

好きな曲を聴いている時

色々、たくさん、有り触れて

あなたの幸せ、教えてくれた

私の隣で眠りにつく時

一緒に出掛けるときに私が着ている服を見て「似合うな、可愛いな」
と思う時

そんな幸せならば、多分一生幸せで居られるよ

2008 / 12 / 08

【森の正体】

私が進むこの森は

誰の目から見ても多分きつと

真っ暗で怖くて不安で危険な森で

でも、私にだけ明るい森に見えているだけ

自分がそう思い込んでいるだけかもしれません

それでもね

その先がどうなっているのかなんて

今はまだ誰も知らない

予測は出来るけれど

予測ではない

だから進むのです

心に想いを

瞳にあなたを

手には剣と楯を

森でもしかしたら私は

出口に辿り着く前に

通りかかった王子様と

恋に落ちるかもしれません

ねえ護衛さん

あなたはそれを望んでいるのでしょうか？

多分それが最良です

そして私もそれを望んでる

でも今はまだこの森にいさせて

2004/08/02

ゆめ

小さい頃から、お母さんになりたかった

お母さんは、主婦の鑑のような人で

主婦とはそういうものなんだと思ってた

大きくなったら、ああなるんだと思ってた

毎朝旦那様にお弁当を作るのです

それがゆめだったのです

と、あなたに言ったら。

「そんなんでもいいの？」

と物凄く驚かれたけれど

それで、良いのです

お前の夢は必ずオレが叶えるから、と

あなたの言葉を想って願って祈って

きつと、そのゆめはそろそろ叶う

必ずやること、ご飯にハートを描くのです

2008/11/07

【七夕から約一ヶ月】

「ずっと遊べますように」

「たくさん遊べますように」

私が短冊に込めた願い

もしかしたら

もしかしくても

叶いそうですか？

どんな形であれ

その願いは叶いますか？

叶いそうですね

そう

あの時点で私は恋人になることを諦めた

最初から無理だと思ってた

私の勘、当たってたでしょう？

こうなることを予測して書いた

「ずっと遊べますように」

「たくさん遊べますように」

後悔等していない

だって、今幸せだから

2004/08/02

・・・暗い詩ですねえ・・・。

【明るい森と大事な護衛さん】

私は森へと進みましょう
真っ白で明るい森でした
陽の光が零れてて
キラキラ光ってとっても素敵

暢気に鼻歌歌いつつ
そのままゆつくり進みましょう
スキップしながら進みましょう
途中で休憩もしてみましょう

その森は道が一本しかなく
迷う事無く進んでいける

でもね、先は見えやしない
霧がかかって見えないの
それでも私は突き進む

その先は崖かもしれない
その先は行き止まりかもしれない
その先は最初の道へのループかもしれない

それでも進もう、笑顔のままで
後ろにいる護衛さん
大丈夫、私は平気よ
ほら剣だって持っているの

それでも万が一の時は

頼らせていただきましょう

【またね】

「卑怯だと思うけど好きだから」

「本音は会いたいから」

「ここで終わらせたくない」

2人の心に同じ想い

全く同じ、想いがあつた

それで十分、私はいける

間違ってますか？

卑怯ですか？

ですが

私達の問題で

私が大好きで

あなたも好きで

私がかいたくて

あなたも会いたいなら

「またね」

相応しい言葉は、それでした

何より嬉しいのは

あなたが私に

「好きなものは好きなんだから仕方がない」
それを言った時でした

だから、大丈夫
「またね」

2004/08/01

【笑顔復活】

内緒にしよう、この恋を
嘘ついてごめんね友達達
それでもね

ごめんね、止まらないのです
見て、私の笑顔
昨日までと大違い

だから、大丈夫
私は笑顔でいられるから
辛くなるかな、初めての経験

それでも、きつと
私は笑顔のままだと思います

大好きだから、会いたい
会えるから、約束する
約束するから、笑える
笑えるから、生きていける

笑顔復活、完全回復
恋する乙女は負けません

戦え私、逃げるな私
負けちゃいけない、好きなんだから

2004/08/01

【止めちゃいけない】

私の最初の勘

「この人は恋人にはならない」

その勘は当たったけれど

止めませんから、この想いは

あなたを想い続け

2人で密会するけれど

大丈夫、他に好きな人も探します
無理だと思えますけれど

それでも会わないようにしたって
すぐに気持ちの切り替えなんて出来ないから
きつと私は辛いままだから
それよりは

大好きなあなたに会えるまま
他の人に目を向けたほうが
私はとっても楽ですから

これはいけないことかもしれない
それでも

私は止めません、この想いを
彼女の座を奪うつもりの勢いで
・・・止めませんから

この気持ちは、止めちゃいけない

2
0
0
4
/
0
8
/
0
1

「大好きだから、会いたい」

私の選んだ道

決して後悔するものか

何故ならば本音だから

私の本音、私の本心

「大好きだから、会いたい」

周りに何か言われるのが怖い

だから、言わない

卑怯かもしれないけれど

私はこの道をとります

会えなくなるより

会えたほうが素敵

あなたに彼女がいたとしても

未来に私があなたの彼女となる

そんな素敵な可能性があるならば

私は幸せなのです

その道は今までよりも辛くない

何故ならば状況が分かっているから

大好きだから、会いたい

それだけです

2
0
0
4
/
0
8
/
0
1

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3190u/>

【詩】ふわり舞う、言ノ葉

2011年12月2日16時46分発行